

令和2年度（2020年度）必履修科目シラバス

富山県立富山中部高等学校

国語 国語総合

地歴 世界史 A

日本史 B

地理 B

公民 現代社会

数学 数学 I

理数数学 I

理科 物理基礎

理数物理

化学基礎

理数化学

生物基礎

理数生物

保健体育 体育

保健

芸術 音楽 I

美術 I

書道 I

外国語 コミュニケーション英語 I

総合英語

家庭科 家庭基礎

情報 社会と情報

学年	1	学科	普通科 理数科学科 人文社会科学科	教科	国語総合 現代文	単位数	1, 2						
教科書	新探求国語総合現代文・表現編 (桐原書店)		副教材 問題集	基礎学習システム必修現代文・同演習ノート (数研出版)、プレミアムカラー国語便覧(数研 出版)、語彙がひろがる同音同訓漢字帳(いい ずな書店)									
目標	筆者が言おうとしていることを、正確に過不足なく読み取ることのできる読解力や理解力を養成し、併せて自分の考えを持ち、論理的に意見を述べたり話し合ったりできる的確な表現力を伸長する。また様々な文章を読むことで、社会事象に対する関心や問題意識を啓発する。												
具体的な取り組み 指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張とその根拠となる部分を正確に読み取らせるための適切な支援を行う。 抽象的な表現や難解な比喩表現などについて、理解しやすくなる具体例を提示する。 授業の中で記述をする設問を用意し、記述力の向上をはかる。また発問に対して論理的に的確に答えさせる。 筆者の他の作品や関連書物、執筆背景などを提示して、生徒の探究心を高め、自発的な学習・読書に向かわせる。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	随想I 「旅する力」	4		・随想を読み、本文の内容を的確に理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を大まかにつかむことができる。 無力であることと旅の関係を理解し、自らの日常と関係づけることができる。 								
5	小説I 「羅生門」	4	中間考査	・短編小説の面白さを味わせ、鑑賞の仕方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の性格・心理・行動を読み取ることができる。 高校生としての自我の自立と関係付け、人間に対する関心を深めることができる。 								
	評論I 「サイボーグとクローン人間」	1		・筆者の論理展開を読み取り、文章を読み解く意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の問題意識とその根拠を読み取ることができる。 文明の変化の要因について、考えを深めることができる。 								
6	評論解析A①	6	第2回実力テスト	・話題、論旨の展開を把握し、主要な見解をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 「マヨネーズの穴」と「デザイン」の共通点をまとめることができる。 								
	評論解析A②	1		・対比構造に着目し、話題・論の展開を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 環境世界を構築するまでの。「ヒト」と「ケモノ」の違いを読み取ることができる。 								
7		4	期末考査										
8			第3回実力テスト										
9	評論II 「経済の論理／環境の論理」	4		・評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 二項対立の方法を理解し、評論の基本を身に付ける。 環境問題に対する一般常識と経済学との考え方の違いを理解する。 								
	評論解析A③	1		・具体例と対応する筆者の主張をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 未来世代と現代世代との「信任」関係において倫理的な行動の必要性を理解できる。 筆者が主張する、科学への向き合い方が理解できる。 								
9	小説I 「神様」	4		・作中人物の行動と心理状況などを、表現に即して読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な表現に込められている作者の意図を読み取ることができる。 全文から読み取れる作品の主題が理解できる。 								
10	評論解析A④	1	中間考査	・見解の根拠を把握する重要性をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 言語学と人類学との観点の相違を踏まえて、筆者の言語観を把握できる。 								
	評論III 「遅れてきた私」	4		・自分と社会との関係について考える態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分に先立って存在する社会のあり方を踏まえ、「私」が他の誰かとのつながりの中にあることが理解できる。 「私」という存在自体の中に社会が存在していることが理解できる。 								
	評論解析B⑤	1	第4回実力テスト	・接続表現に着目し、話題論旨の展開を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する社会の中で必要とされる力とは何かを理解できる。 								
11	小説II 「夢十夜」	5		・作中人物の行動と心理状況などを、表現に即して読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な表現に込められている作者の意図を読み取ることができる。 表現上の特徴をつかみ、重層的な意味を理解できる。 								
	評論解析B⑥	1	期末考査	・指示内容を理解しながら、論の展開をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 価値のゆらいだ現代における筆者の思索の方法を読み取ることができる。 								
12													
1	評論IV 「思想の出自」	4	第5回実力テスト	・「思想」の対立への筆者の対処法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考える「言語の逆説的な特質」について理解できる。 「思想の多様性」の持つ二つの側面を把握し、いずれも思想の本質に発することができる。 								
	評論解析B⑦	1		・評論文における表記や表現の工夫について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的人権」と「責任」に共通する性質を理解できる。 								
2	小説III 「富岳百景」	4		・まとまった分量の小説を読み味わうとともに、作品の主題や特徴のある表現を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心の動きに注意して、まとまった分量の小説を読み味わう。 文体の特色や象徴的な表現の効果について考え、小説の鑑賞力を高める。 								
	評論V 「宇宙樹」	4	学年末考査	・通俗的な二元論を解体し、「相対化」の視点の獲得をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 巨木と他の植物との関係を総合的に読み取ることができる。 								
3	評論解析B⑧	1		・キーフレーズの重要性について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 樹と人間の生き方について考えることができる。 「世界を逆方向から眺める」ことにより、どのような視野が得られるかを把握できる。 								

学年	1	学科	普通科 理数科学科 人文社会科学科	教科	国語総合(古典)	単位数	3, 2						
教科書	新探求国語総合 古典編(桐原書店)		副教材 問題集	理解しやすい古文・同演習ノート(文英堂)、完全マスター古典文法・同練習ノート(第一学習社)、理解しやすい漢文(文英堂)、漢文必携・同エクノート(桐原書店)、プレミアムカラー国語便覧(教研出版)									
目標	高校教育における古文・漢文学習の基礎を固め、文法知識、語彙、古典常識を活かして文脈を正しく読解する力を養う。 古典に親しむ態度を養い、時空を越えた普遍的な感情や思想、情趣を感じ取れるようにする。併せて、生徒自身のものの見方や感じ方を豊かにする。												
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	・本文の音読を繰り返して、古典のリズムを身につけさせる。 ・文法事項、語彙、漢文句法等の基礎事項の定着をはかり、確かな解釈を導く力を養う。 ・敬語や会話の内容等の与えられた条件の下で、正しく動作の主体を判別し、文脈を追えるように工夫する。 ・様々な分野の文章に触れながら読解力を養成する。 ・反復練習を通して、搖るぎない学力を定着させる。												
月 学期	単元名・項目	時間	添付・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	古文入門 児のそら寝 檢非違使忠明 大江山の歌	8		・古文と現代文の違いを知り、古文学習の意義を理解する。 ・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	・歴史的仮名遣いを理解し、音読ができる。 ・用言の活用、基本的な古語、慣用表現について、理解できる。 ・適切に現代語訳し、内容を捉えることができる。								
5	漢文入門 漢文の基本 故事成語 漁父之利 推敲 古文入門 盜人の正体	3	中間考査	・訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。 ・格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。 ・古文に慣れ、作品を正しく理解する。	・漢文訓読の原則を理解して運用することができる。 ・古代中国人のものの考え方を知ることで、日本文化への影響を意識できる。 ・用言の活用、基本的な古語、慣用表現について、理解できる。 ・適切に現代語訳し、内容を捉えることができる。								
6	物語「伊勢物語」 芥川・東下り 筒井筒・小野の雪	7	特別授業	・古文に描かれた内容を、叙述に即して的確に読み取る。 ・歌物語の特質を理解する。	・古文独特の言葉遣いや文章のリズムを理解し音読できる。 ・物語の中の和歌の働きを理解し、登場人物の心情を捉えられる。 ・さまざまな愛のかたちと、それに応じた微妙な心の動きを読み取ることができる。								
7	故事成語 知音 朝三暮四 塞翁馬	3	第3回実力テスト	・登場人物の言動から、寓話に込められた意図を考える。	・書き下し文を書くことで、漢文特有の読み方を習熟する。 ・句法や助字、重要語について理解できる。 ・故事成語への理解を文章を読むことで深化できる。								
8	隨筆「徒然草」 序段 ある人、弓射ることを 奥山に猫また 丹波に出雲 花は盛りに 史伝 鶴口牛後 鶴鳴狗盗	7	期末考査	・古文の表現の特色に注意して、内容を読み取る。 ・人間や自然に対する作者の見方、感じ方を読み味わう。	・表現の細部に気を配ることができる。 ・助動詞の働きを理解し、適切に現代語訳できる。 ・筆者のものの見方や考え方について、理解を深めることができる。 ・主人公の行動及び信条を理解できる。 ・訓読上のきまりを正しく理解できる。 ・登場人物の言動を整理し、その時の心情を正確に理解できる。								
9	物語「竹取物語」 なよ竹のかぐや姫	2	中間考査	・想像力を働かせながら、物語の世界を読み味わう。	・かぐや姫の出生と成長の様子を読解し、その不思議さを理解できる。 ・作り物語の特徴や、設定・展開の面白さを理解できる。								
10	日記「土佐日記」 門出・かしらの雪 帰京 史伝 管鮑之交 臥薪嘗胆 詩文 絶句・律詩	5	第4回実力テスト	・構成や展開を確かめながら、文章を読み取る。 ・描かれた情景や人物の心情などを表現に即して読み取る。	・艶化表現や諧謔滴表現に注意して、女性仮託の特色を考えている。 ・和歌に関する論理的侧面を読み取ることができる。 ・内容と心情を本文に即して、作者の心情を把握できる。 ・人物の言動を整理し、その時の心情を正確に理解できる。 ・それぞれの詩の詩形、押韻、対句を理解している。 ・訓読を通して、詩的リズムの美しさを感じることができる。								
11	軍記「平家物語」 祇園精舎・木曾の最期	8	特別授業	・表現の特色に注意して軍記物語を読み味わう。	・武人の生き方やものの考え方を考察し、古典への興味を持つことができる。 ・時代背景を理解し、和漢混交文の魅力を捉えることができる。								
12	俳諧「奥の細道」 旅こそ栖・那須野の少女 平泉懐古 詩文 絶句・律詩 文章 雑説	6	第5回実力テスト	・表現の特色や、描かれている「旅」の意味について考える。 ・漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩文の世界に親しむ。 ・文章に込められた筆者の主張を理解する。	・発句を正確に解釈し、心情を読み取ることができる。 ・場所とその情景を読み取り、理解している。 ・作者の感慨とその理由を読み取り、理解している。 ・それぞれの詩の詩形、押韻、対句を理解している。 ・訓読を通して、詩的リズムの美しさを感じることができる。 ・比喩表現の意味を理解できる。 ・比喩表現の巧みさが理解できる。								
13	和歌 万葉集、古今和歌集、新古今集 思想 論語・孟子	7	特別授業	・和歌の鑑賞法や修辞技法を理解する。 ・古代中国の思想について理解を深め、考えを豊にす。	・技巧に注意しながら、適切に解釈できる。 ・日本人の季節感と絡めて、四季の感覚をつかむことができる。 ・孔子や弟子たちの意図を読み取ることができる。 ・孟子の意図を読み取り、王道政治について理解している。								

学年	1	学科	普通科・ 理数科学科・ 人文社会科学科	科目	世界史A	単位数	2	
教科書	「世界史A」新訂版 実教出版			副教材 問題集	「最新世界史図説 タペストリー」帝国書院			
目標	1. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、基礎的事項から発展的事項まで正確に把握させる 2. 文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養う 3. 1、2の学習を通して、国際社会に主体的に生きる人物としての自覚と資質を養う							
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 学習法の指導を学年当初に丁寧に行い、効果的な学習習慣の確立をはかる 授業中、既習事項・他教科の学習内容の復習を頻繁に行い、知識の有機的な結合をはかる 基礎的知識の定着をはかるために小テストを適宜行い、各生徒の学習進捗状況を点検し、遅進者に対しては面接・補習などを行う 定期考查・単科テスト・実力テストにおける低得点者を対象に、再テスト・特別補習などの特別指導を実施する 教材の精選に努め、生徒の実力に合ったものを作成・採用する 							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考
4	世界史へのいざない 3章 一体化に向かう世界 1節世界の一体化の第一歩 1 大航海時代 2 ラテンアメリカの変化 2節ルネサンスと宗教改革 1 ルネサンス 2 宗教改革	9	小テスト(題)	<ul style="list-style-type: none"> 日本史と世界史がつながっていることに気づかせる。 ・ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱い、16世紀~18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に授業に取り組めたか ・自分に適した学習法を確立できたか(小テストによる確認、必要に応じて教科面接) ・中間考查を目標に、既習事項を確実に自分のものにできたか【大航海時代、ルネサンス、宗教改革、アメリカ大陸の変容について理解できたか】 			
5	3節ヨーロッパの主権国家体制 1 スペインとオランダの繁栄 2 イギリス革命とフランス絶対主義 3 三十年戦争と東ヨーロッパの発展 4 17~18世紀のヨーロッパ文化	13	1学期中間考查	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ絶対王政の成立の過程を扱い、ヨーロッパでいち早く主権国家が成立したことを理解させる。 また、このことが、ヨーロッパを「中核」とする近代世界システムの成立につながったことを理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考查【西欧主権国家、東欧諸国、ヨーロッパ諸国の植民活動、17~18世紀のヨーロッパ文化について理解できたか】 			
6	1章 ヨーラシア諸文明の特質 2節 ヨーロッパ世界	2		古代・中世ヨーロッパの歴史の流れを扱い、その後のヨーロッパの歴史にどのような影響を与えたのかを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期課題に積極的に取り組み、世界史に対する興味・関心を高めるとともに、既習事項の定着をはかれたか(提出・確認) 			
7	9	11		<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命、フランス革命など、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのヨーロッパ・アメリカの市民革命を扱い、その歴史的意義を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期と夏期の学習を振り返り、学習改善に努められたか ・中間考查【アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオンについて理解できたか】 			
10	5章 19世紀の世界の一体化と日本 1節 産業革命と工業化社会の成立 2節 アメリカ独立戦争 3節 フランス革命とナポレオン戦争 4節 ウィーン体制とその崩壊	12	2学期中間考查	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成の過程を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業による授業改善 ・期末考查【ウィーン体制とその破綻、ヨーロッパ諸国の再編、アメリカ合衆国の発展、19世紀のヨーロッパ文化について理解できたか】 			
11	序章 文明のはじまり 1章 ヨーラシア諸文明の特質	1		日本を含む東アジア文明圏中心となる中華文明のおこりを理解させる。				
12	4節東アジア世界・内陸アジア世界 1 東アジア世界・内陸アジア世界の成立 2 東アジア世界の展開 3 東アジア世界の変動 4 東アジア世界の動き	14		<ul style="list-style-type: none"> ・中華文明圏の拡大と秦漢を嚆矢とする中華帝国がどのように展開し、交替しながら東アジア文明を広めていったか、また、草原地帯の遊牧民族が中華帝国と関わり、影響を与え合ったか、世界帝国となった唐までを学び、中国史の概略を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期課題 ・学年末考查【中国古代文明、中華帝国の形成、騎馬遊牧民との関わり、東アジア文明圏の確立について理解できたか】 ・一年間の学習を振り返り、今後の改善につなげることができたか(プリントによる自己反省) 			
3	地球社会と日本 6章 二つの世界大戦	2		二つの世界大戦について扱う	・春期課題			

学年	2	学科	普通科(文系)	教科	日本史B	単位数	3						
教科書	「詳説 日本史B改訂版」 山川出版社		副教材 問題集	「新編史料日本史」とうほう、「新詳日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほう									
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。												
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するよう促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、プリントに書き込むことで内容の理解をはかる。 地元の遺跡や遺物、博物館の企画展、時事問題などを取り上げ、歴史的認識を深める。 日本史と関わりの深い身近な出来事を取り上げ、適宜解説を行なながら学習内容と関連させて、因果関係を考察させる。 課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。問題集などを提出させ評価する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)	備考							
4	第1章 日本文化のあけぼの												
	1. 文化のはじまり	11											
	2. 農耕社会の成立												
5	3. 古墳とヤマト政権		中間考查										
	第2章 律令国家の形成												
	1. 飛鳥の朝廷	19											
6	2. 律令国家への道												
	3. 平城京の時代												
	4. 天平文化												
	5. 平安王朝の形成		期末考查										
7													
8			第3回実力テスト										
9	第3章 貴族政治と国風文化												
	1. 摂関政治	17											
	2. 国風文化												
	3. 地方政治の展開と武士												
	第4章 中世社会の成立												
10	1. 院政と平氏の台頭	20	中間考查										
	2. 鎌倉幕府の成立												
	3. 武士の社会												
11	4. 蒙古襲来と幕府の衰退		進研記述模試										
	5. 鎌倉文化												
12	第5章 武家社会の成長												
	1. 室町幕府の成立	18	期末考查										
1	2. 幕府の衰退と庶民の台頭		第5回実力テスト										
	3. 室町文化		学研マーク模試										
2	4. 戦国大名の登場												
	第6章 幕藩体制の確立												
	1. 織豊政権	5	学年末考查										
	2. 桃山文化												
3	3. 幕藩体制の成立	6	春期特別授業										

学年	2	学科	普通科（理系）	教科	日本史B	単位数	2	
教科書	「詳説 日本史B 改訂版」 山川出版社	副教材 問題集	「新編史料日本史」とうほう、「新説日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほ					
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するよう促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、プリントに書き込むことで内容の理解をはかる。 最新の研究成果、地元の遺跡や遺物、博物館の企画展、時事問題などを取り上げ、歴史的認識を深める。 適宜ニュース解説を行うなど、現在の出来事と日本史の学習内容を関連づけ、生徒の関心と課題意識を高めることができるようする。 課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。問題集などを課題として提出させ評価する。 							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ペイント)	備考		
4	第1章 日本文化のあけぼの							
	1. 文化のはじまり	5		・旧石器時代の遺跡は約3万年前に始まる後期旧石器時代に属すること、遺物、遺構から当時の人々の生活や社会、文化について理解させる。 ・弥生文化の成立と身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解させる。 ・ヤマト政権が西日本各地の首長の連合体として形成されて統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解させる。	・日本史B学習の意味を理解し、学習意欲を高める。 ・日本列島における旧石器文化、縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響を関連させて理解する。 ・原始社会の人々の生活や社会の変化を理解する。 ・水稻農耕の開始、金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を考察する。農耕社会の発展や集落・墓制の変化が示すことを理解して説明できる。 ・考查評価を基本に、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。 ・古墳の形状、大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係考察する。前期・中期・後期古墳の特徴を理解し、ヤマト政権や社会の変化を説明できる。			
	2. 農耕社会の成立							
5	3. 古墳とヤマト政権		中間考查					
	第2章 律令国家の形成							
	1. 飛鳥の朝廷	6		・ヤマト政権の国内統一、律令体制の成立から奈良時代にいたる政治の動向と律令制に基づく土地と人民に対する統治体制が整備されてきたことを理解させる。 ・東アジア世界との関係と遣隋使や遣唐使によってもたらされた文物・制度の影響に着目させ、天平文化などの文化の特色について考察させる。 ・平安初期における律令政治の再建と弘仁・貞觀文化を理解させる。	・推古朝の政治や文化について理解する。 ・東アジアの動向と大陸との交渉、律令制度の内容を理解する。 ・律令国家の建設がめざされた背景や政府の政策の意味を理解し、説明できる。 ・奈良時代の政権の推移と政策を理解する。 ・歴史的出来事を把握してその背景を理解し、基本的知識を身に付けているか、定期考查等で評価する。 ・天平文化の特色と内容について理解する。 ・平安初期の政治や文化を理解する。 ・律令制の変容と地方や貴族社会の変貌を理解する。			
6	2. 律令国家への道							
	3. 平城京の時代							
	4. 天平文化							
	5. 平安王朝の形成		期末考查					
7								
8			第3回実力テスト					
9	第3章 貴族政治と国風文化							
	1. 摂関政治	4		・平安京造営から摂関政治までの過程を、社会の変化や東アジア世界との関係の変化、荘園の動きや武士の発生などの地方の動向に着目させながら、古代国家の推移と国風文化の展開について理解させる。 ・武士の台頭を寄進地系荘園の発達と絡ませて考えさせる。	・摂関政治の成立過程を理解する。 ・国風文化の特色と内容について理解する。 ・考查評価を基本としつつ、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。 ・荘園制の展開や武士の成長を理解し、中世社会の形成を考察する。 ・律令体制の崩壊や貴族社会の変容と、荘園制・武士の登場を関連させて理解できている。			
	2. 国風文化							
	3. 地方政治の展開と武士							
10	第4章 中世社会の成立							
	1. 院政と平氏の台頭	7	中間考查	・院政から平氏政権までの過程を荘園公領制の確立や武士団の形成、保元・平治の乱などの動向に着目させながら、武士団の台頭について理解させる。 ・公家政権との抗争の中から鎌倉幕府が独自の武家政権を創出させていったことを理解させる。	・院政と平氏政権の成立過程と政権の特徴を理解する。 ・考查評価を基本としつつ、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。 ・院政期の社会や文化の特徴を理解する。 ・鎌倉幕府の成立過程と政権の特徴を理解する。 ・執権政治と武士社会の特色について理解する。			
	2. 鎌倉幕府の成立							
11	3. 武士の社会		進研記述模試	・貨幣経済の進展や元寇を契機とした御家人制度の崩壊が進み、悪党らの反社会的な行動も隆盛化して、鎌倉幕府が滅亡していったことを理解させる。	・蒙古襲来と幕府政治や社会への影響について考察する。 ・鎌倉幕府の衰退を社会の変化と関連させて理解できている。 ・鎌倉文化の特色と内容について理解する。			
	4. 蒙古襲来と幕府の衰退							
	5. 鎌倉文化		第4回実力テスト					
12								
1	第5章 武家社会の成長							
	1. 室町幕府の成立	6		・南北朝の動乱と室町幕府の支配機構について理解させる。 ・武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目させて、武家社会と公家社会の関わりや庶民文化の萌芽、地方への文化波及の様相を理解させる。	・建武の新政と南北朝の動乱、室町幕府の成立過程を理解する。 ・14~15世紀の東アジア情勢の変化と日本との関わりを理解する。 ・惣の形成と一揆の背景を学び、社会の変化や特徴を考察する。 ・室町時代の産業の発達と国人・地侍・土民層の台頭を、関連させて理解できている。 ・室町幕府の衰退とそれにともなう社会の変化を理解する。 ・室町文化の特色と内容について理解する。 ・戦国大名の領国支配について理解する。			
	2. 幕府の衰退と庶民の台頭							
2	3. 室町文化		学研マーク模試	・戦国大名の領国支配を通して戦国の動乱を理解させる。	・考査評価を基本とし、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。			
	4. 戦国大名の登場							
3	第6章 幕藩体制の確立		春期特別授業					
	1. 織豊政権	4		・織田信長と豊臣秀吉の統一過程をとらえさせるとともに、領地や刀剣などを中心に全国的な支配体制を確立する一方で朝鮮侵略に至る秀吉の对外政策についても理解させる。 ・ヨーロッパ人の来航が日本社会に与えた影響を考えさせる。	・織田信長の天下統一に向けてのあゆみや政策について理解する。 ・豊臣秀吉の政権の特徴や政策について理解する。 ・桃山文化の特色と内容について理解する。			
	2. 桃山文化							

学年	2	学科	人文社会学科 理数科学科	教科	日本史B	単位数	2						
教科書	「詳説 日本史B改訂版」 山川出版社		副教材 問題集	「新編史料日本史」とうほう、「新詳日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほう									
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。												
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するよう促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、プリントに書き込むことで内容の理解をはかる。 最新の研究成果、地元の遺跡や遺物、博物館の企画展、時事問題などを取り上げ、歴史的認識を深める。 適宜ニュース解説を行うなど、現在の出来事と日本史の学習内容を関連づけ、生徒の関心と課題意識を高めることができるようする。 課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。問題集などを課題として提出させ評価する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	添・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)	備考							
4	第1章 日本文化のあけぼの												
	1. 文化のはじまり	9		・旧石器時代の遺跡は約3万年前に始まる後期旧石器時代に属すること、遺物、遺構から当時の人々の生活や社会、文化について理解させる。 ・弥生文化の成立と身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解させる。	・日本史B学習の意味を理解し、学習意欲を高める。 ・日本列島における旧石器文化、縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響を関連させて理解する。 ・原始社会の人々の生活や社会の変化を理解する。								
	2. 農耕社会の成立			・ヤマト政権が西日本各地の首長の連合体として形成されて統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解させる。	・水稻農耕の開始、金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を考察する。農耕社会の発展や集落・墓制の変化が示すことを理解して説明できる。								
5	3. 古墳とヤマト政権		中間考查	・古墳の形状、大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係考察する。前期・中期・後期古墳の特徴を理解し、ヤマト政権や社会の変化を説明できる。									
	第2章 律令国家の形成												
	1. 飛鳥の朝廷	11		・ヤマト政権の国内統一、律令体制の成立から奈良時代にいたる政治の動向と律令制に基づく土地と人民に対する統治体制が整備されてきたことを理解させる。	・推古朝の政治や文化について理解する。								
6	2. 律令国家への道			・東アジア世界との関係と遣隋使や遣唐使によってもたらされた文物・制度の影響に着目させ、天平文化などの文化の特色について考察させる。	・東アジアの動向と大陸との交渉、律令制度の内容を理解する。 ・律令国家の建設がめざされた背景や政府の政策の意味を理解し、説明できる。 ・奈良時代の政権の推移と政策を理解する。								
	3. 平城京の時代			・平安初期における律令政治の再建と弘仁・貞觀文化を理解させる。	・歴史的出来事を把握してその背景を理解し、基本的知識を身に付けているか、定期考查等で評価する。								
	4. 天平文化				・天平文化の特色と内容について理解する。								
	5. 平安王朝の形成				・平安初期の政治や文化を理解する。								
7			期末考查		・律令制の変容と地方や貴族社会の変貌を理解する。								
8			第3回実力テスト										
9	第3章 貴族政治と国風文化												
	1. 摂関政治	9		・平安京造営から摂関政治までの過程を、社会の変化や東アジア世界との関係の変化、荘園の動きや武士の発生などの地方の動向に着目させながら、古代国家の推移と国風文化の展開について理解させる。	・摂関政治の成立過程を理解する。 ・国風文化の特色と内容について理解する。 ・検査評価を基本としつつ、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。								
	2. 国風文化			・武士の台頭を寄進地系荘園の発達と絡ませて考えさせる。	・荘園制の展開や武士の成長を理解し、中世社会の形成を考察する。 ・律令体制の崩壊や貴族社会の変容と、荘園制・武士の登場を関連させて理解できている。								
	3. 地方政治の展開と武士												
10	第4章 中世社会の成立												
	1. 院政と平氏の台頭	11	中間考查	・院政から平氏政権までの過程を荘園公領制の確立や武士団の形成、保元・平治の乱などの動向に着目させながら、武士団の台頭について理解させる。	・院政と平氏政権の成立過程と政権の特徴を理解する。 ・検査評価を基本としつつ、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。								
	2. 鎌倉幕府の成立			・公家政権との抗争の中から鎌倉幕府が独自の武家政権を創出させていったことを理解させる。	・院政期の社会や文化の特徴を理解する。 ・鎌倉幕府の成立過程と政権の特徴を理解する。 ・執権政治と武士社会の特色について理解する。								
11	3. 武士の社会		進研記述模試	・貨幣経済の進展や元寇を契機とした御家人制度の崩壊が進み、懇親らの反社会的な行動も隆盛化して、鎌倉幕府が滅亡していくことを理解させる。	・蒙古襲来と幕府政治や社会への影響について考察する。 ・鎌倉幕府の衰退を社会の変化と関連させて理解できている。								
	4. 蒙古襲来と幕府の衰退		第4回実力テスト										
12	5. 鎌倉文化		期末考查	・鎌倉文化を新仏教諸宗を中心理解させる。	・鎌倉文化の特色と内容について理解する。 ・歴史的出来事を把握してその背景を理解し、基本的知識を身に付けているか、定期考查等で評価する。								
1	第5章 武家社会の成長		第5回実力テスト										
	1. 室町幕府の成立	12		・南北朝の動乱と室町幕府の支配機構について理解させる。	・建武の新政と南北朝の動乱、室町幕府の成立過程を理解する。 ・14~15世紀の東アジア情勢の変化と日本との関わりを理解する。								
	2. 幕府の衰退と庶民の台頭			・武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目させて、武家社会と公家社会の関わりや庶民文化の萌芽、地方への文化波及の様相を理解させる。	・惣の形成と一揆の背景を学び、社会の変化や特徴を考察する。 ・室町時代の産業の発達と国人・地侍・土民層の台頭を、関連させて理解できている。								
2	3. 室町文化		学研マーク模試	・戦国大名の領国支配を通して戦国の動乱を理解させる。	・室町幕府の衰退とそれにともなう社会の変化を理解する。 ・室町文化の特色と内容について理解する。								
	4. 戦国大名の登場				・戦国大名の領国支配について理解する。								
3	第6章 幕藩体制の確立	春季特別授業			・検査評価を基本とし、授業への意欲・関心・態度などを総合的に評価する。								
	1. 織豊政権	6		・ヨーロッパ人の来航が日本社会に与えた影響を考えさせる。	・織田信長の天下統一に向けてのあゆみや政策について理解する。 ・豊臣秀吉の政権の特徴や政策について理解する。								
	2. 桃山文化				・桃山文化の特色と内容について理解する。								

学年	3	学科	普通科（文系）	教科	日本史B	単位数	4						
教科書	「詳説日本史 改訂版」 山川出版社		副教材 問題集	「新編 史料日本史」とうほう、「新詳日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほう									
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。												
・具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するように促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、歴史の流れや内容の理解を深める。 最新の歴史研究成果、地元の遺跡や遺物、時事問題などを幅広く取り上げ、歴史的認識を深める。 現代の社会や日本人の意識の形成について、日本史学習を通して関連性を理解する。歴史への関心・問題意識を高めることができるように努める。 問題演習を定期的に行い、知識の定着を図る。「日本史の整理と演習」などを提出させ評価する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	添・特別指導	指導目標（ねらい）	指導内容（学習活動）と評価の基準（ポイント）	備考							
4	第6章 幕藩体制の確立		第1回 進学模試	・幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配の観点から考察させる。	・幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて多面的に考察できたか。								
	4 幕藩社会の構造			・経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	・元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教學として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。								
	第7章 幕藩体制の展開			・農村を基盤とする幕藩体制が動搖していく過程と、幕府や藩の対応策を理解させ、幕藩体制が動搖していく背景や要因を考察させる。	・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。								
5	1 幕政の安定	3	中間考査	・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。	・列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。								
	2 経済の発展	2		・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	・公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。								
	3 元禄文化	2	第2回 進学模試	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。	・廃藩置県・徵兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。								
6	第8章 幕藩体制の動搖		期末考査	・東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。	・条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。								
	1 幕政の改革	4	夏季特別授業	・近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	・劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾銅毒事件などに关心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。								
	2 宝曆・天明期の文化	2	第3回 進学模試	・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持つて成立した近代文化的特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	・国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。								
7	3 幕府の衰退と近代への道	4	第4回 進学模試	・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	・大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。								
	4 化政文化	4		・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	・学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。								
9	第9章 近代国家の成立			・恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	・満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。								
	1 開国と幕末の動乱	7		・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。	・中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。								
	2 明治維新と富国強兵	7		・戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	・主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。								
	3 立憲国家の成立と日清戦争	6		・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。	・保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。								
10	4 日露戦争と国際関係	7	中間考査	・消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	・特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。								
	5 近代産業の発展	6	第5回 進学模試	・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	・冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。								
11	6 近代文化の発達	5											
12	第10章 二つの世界大戦とアジア		期末考査										
	1 第一次世界大戦と日本	6											
	2 ワシントン体制	5											
	3 市民生活の変容と大衆文化	5											
13	4 恐慌の時代	5											
	5 軍部の台頭	6											
	6 第二次世界大戦	5											
	第11章 占領下の日本												
	1 占領と改革	5											
	2 冷戦の開始と講和	5											
	第12章 高度成長の時代												
	1 55年体制	5											
	2 経済復興から高度成長へ	5											
	第13章 激動する世界と日本												
	1 経済大国への道	4											
	2 冷戦終結と日本社会の動揺	4											
1	センター試験問題演習	9											

学年	3	学科	人文社会科学科	教科	日本史B・日本史研究	単位数	5						
教科書	「詳説日本史 改訂版」 山川出版社		副教材 問題集	「新編 史料日本史」とうほう、「新詳日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほう									
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。												
・具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するように促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、歴史の流れや内容の理解を深める。 最新の歴史研究成果、地元の遺跡や遺物、時事問題などを幅広く取り上げ、歴史的認識を深める。 現代の社会や日本人の意識の形成について、日本史学習を通して関連性を理解する。歴史への関心・問題意識を高めることができるように努める。 問題演習を定期的に行い、知識の定着を図る。「日本史の整理と演習」などを提出させ評価する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標（ねらい）	指導内容（学習活動）と評価の基準（ポイント）			備考					
4	第6章 幕藩体制の確立		第1回 進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の仕組みについて、幕府の組織、政権基盤、大名・朝廷・寺社・農民統制のあり方、鎖国政策を考察し、政治的、社会的な背景や役割と関連させて理解させる。 近世の農業や商工業、その他の諸産業の発展を理解させ、都市や農村で生み出された文化との関連性を理解させる。 経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 農村を基盤とする幕藩体制が動搖していく過程と、幕府や藩の対応策を理解させ、幕藩体制が動搖していく背景や要因を考察させる。 欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。 近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。 恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。 消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。 冷戦体制の終結とそれに伴う国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立と統治のための諸政策、鎖国政策の役割、その後の政治のあらましを通じて、幕藩体制の特色を理解する。 鎖国政策が日本の社会や文化などに及ぼした影響とその歴史的意義について理解する。 新田開発や農業技術の発達などにより農業生産が増大したこと、河川交通・海上交通の発達が都市と農村を結ぶ経済圏を成立させ、各地に特色ある産業が生まれて全般的な商品流通の基盤ができたことを理解する。 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教學として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみるとができたか。 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 廃藩置県・徵兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。 保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。 特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。 								
5	第7章 幕藩体制の展開												
6	第8章 幕藩体制の動搖		第2回 進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 幕政の安定 経済の発展 元禄文化 	<ul style="list-style-type: none"> 新田開発や農業技術の発達などにより農業生産が増大したこと、河川交通・海上交通の発達が都市と農村を結ぶ経済圏を成立させ、各地に特色ある産業が生まれて全般的な商品流通の基盤ができたことを理解する。 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみるとができたか。 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 廃藩置県・徵兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。 保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。 特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。 								
7	第9章 近代国家の成立												
9	第10章 二つの世界大戦とアジア		夏季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代化への道 化政文化 	<ul style="list-style-type: none"> 幕政の改革 幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。 近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。 恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。 消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。 冷戦体制の終結とそれに伴う国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 								
10	第11章 占領下の日本												
11	第12章 高度成長の時代		第3回 進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦 	<ul style="list-style-type: none"> 新田開発や農業技術の発達などにより農業生産が増大したこと、河川交通・海上交通の発達が都市と農村を結ぶ経済圏を成立させ、各地に特色ある産業が生まれて全般的な商品流通の基盤ができたことを理解する。 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみるとができたか。 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 廃藩置県・徵兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。 保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。 特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。 								
12	第13章 激動する世界と日本												
1	センター試験問題演習		冬季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> 経済大国への道 冷戦終結と日本社会の動揺 	<ul style="list-style-type: none"> 新田開発や農業技術の発達などにより農業生産が増大したこと、河川交通・海上交通の発達が都市と農村を結ぶ経済圏を成立させ、各地に特色ある産業が生まれて全般的な商品流通の基盤ができたことを理解する。 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみるとができたか。 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 廃藩置県・徵兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。 保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。 特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。 								

学年	3	学科	理数科学科	教科	日本史B	単位数	3						
教科書	「詳説日本史 改訂版」 山川出版社		副教材 問題集	「新編 史料日本史」とうほう、「新詳日本史」浜島書店、「日本史用語集 改訂版」山川出版社、「日本史の整理と演習」とうほう									
目標	基本的な事項・用語の正確な理解に努めるとともに、世界史的視野に立って、日本の歴史についての全体像の理解を深める。また日本の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、日本の歴史や文化を客観的に判断できる態度を養成する。												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿ったプリントを作成し、生徒に積極的に授業に参加するように促す。 教科書・史料集・図説を多面的に利用し、プリントに書き込むことで内容の理解をはかる。 地元の遺跡や遺物、時事問題などを取り上げ、歴史的認識を深める。 												
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 現在の事件と日本史を結びつけ、関心と問題意識を高めることができるように適宜ニュース解説を行って学習内容との関連を説明し、因果関係を考察する。 問題演習を定期的に行い、知識の定着を図る。「日本史の整理と演習」などを提出させ評価する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	添付・特別指導	指導目標（ねらい）	指導内容（学習活動）と評価の基準（ポイント）	備考							
4	第6章 幕藩体制の確立		第1回 進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の仕組みについて、幕府の組織、政権基盤、大名・朝廷・寺社・農民統制のあり方、鎖国政策を考察し、政治的・社会的な背景や役割と関連させて理解させる。 近世の農業や商工業、その他の諸産業の発展を理解させ、都市や農村で生み出された文化との関連性を理解させる。 経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 農村を基盤とする幕藩体制が動搖していく過程と、幕府や藩の対応策を理解させ、幕藩体制が動搖していく背景や要因を考察させる。 欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立と統治のための諸政策、鎖国政策の役割、その後の政治のあらましを通じて、幕藩体制の特色を理解する。 鎖国政策が日本の社会や文化などに及ぼした影響とその歴史的意義について理解する。 新田開発や農業技術の発達などにより農業生産が増大したこと、河川交通・海上交通の発達が都市と農村を結ぶ経済圏を成立させ、各地に特色ある産業が生まれて全国的な商品流通の基盤ができたことを理解する。 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教學として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。・大坂・京都・江戸などの三都を中心に、経済力を増した町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。 								
5	第7章 幕藩体制の展開		中間考查										
6	第8章 幕藩体制の動搖		第2回 進学模試										
7	第9章 近代国家の成立		期末考查										
9	第10章 二つの世界大戦とアジア		夏季特別授業										
10	第11章 占領下の日本		第3回 進学模試										
11	第12章 高度成長の時代		第4回 進学模試										
12	第13章 激動する世界と日本		期末考查										
1	センター試験問題演習		冬季特別授業										

学年	2	学科	普通科（文系）	科目	地理B	単位数	3						
教科書	新編詳解地理B（二宮書店）、新詳高等地図（帝国書院）		副教材 問題集	新編地理資料2020（東京法令）、地理統計要覧2020（二宮書店）、サクシード地理（啓隆社）									
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。												
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 地図帳や写真・図表、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 定期考查を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題の量や内容を十分に検討する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	第I編 地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図と地域調査	12	中間考查	<ul style="list-style-type: none"> 地図は利用目的に応じて様々な形態があることを理解させる。 地形図やGISを用いて生活圏の地域的特色を捕らえる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図の発達の歴史、地図の種類を知る。また、デジタル化により、新しい地図ができ、地図の活用範囲が広がっていることが理解できる。 等高線、地図記号を理解し、地形図の読み取りができる。また、GISを用いて作られた地図から生活圏の地域的特色を捕らえることができる。 								
5	第II編 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 地形	18	期末考查	<ul style="list-style-type: none"> 様々な要因によって構成される各種の地形の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 特徴的な小地形と人間生活との関わりを、具体事例を通して考察させる。 日本列島の地体構造や地形の特色について理解させ、豊かな自然や自然災害との関わりについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球のすがたを知り、海陸比や陸の偏り、陸の高度、海洋の深度の偏りについて理解出来る。 地殻変動によって作られた大地形を地域別に捕らえることができる。 山地、平野、海岸、氷河、カルストなどの地形の特色と分布を理解し、人間生活との関わりについて考えることができる。 日本付近のプレートの境界の位置を知り、それらにより生み出された地形や自然環境について理解出来る。 								
6			課題										
7			1 第3回実力テスト										
8	気候 自然と生活	20		<ul style="list-style-type: none"> 気候環境を構成している気候要素、気候因子について、その基礎的知識を定着させる。 世界の気候区や土壌帯、植生の特色を理解させ、人間生活との関わりを考察させる。 日本列島の気候の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 人間生活が地球環境に及ぼす影響について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素について知り、風・気温・降水量が気候に与える影響について考えることができる。 緯度、隔海度、季節、気圧配置、地形、海流などの気候因子と降水量の関係が理解できる。 気候要素や大気循環を理解し、地域ごとの気候因子の違いをふまえて気候の違いを捕らえることができる。 気候と植生・土壌との関係が理解できる。 各気候の特徴を理解し、人間生活との関わりを考察することができる。 日本の気候に影響を与える気団・前線・季節風などが理解できる。 様々な環境問題が世界のどの地域に生じているのかを読み取り、問題の要因について考えることができます。 								
9			中間考查										
10	環境問題	20											
11	2章 自然と産業 農林水産業		第4回実力テスト 期末考查	<ul style="list-style-type: none"> 気候の地域的特徴やその地域の社会的背景からその地域に適した農業について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の栽培条件や気候区分から農業の地域区分を考察できる。 農業地域の形成に文化・経済・政策などの社会条件も影響し、また工業化に伴って農業が変化していることが理解できる。 								
12			課題										
1			1 第5回実力テスト										
2	資源・エネルギー	18	学年末考查	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の林業・水産業の現状並びに問題点を考察させる。 日本の農業の特色を、世界の農牧業との比較を通して理解させる。 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捕らえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の分布をふまえた林業の特色や、各国の林業政策やその背景について理解できる。 漁場の成立条件と、世界の主要漁場が理解できる。日本の水産業の特色と歴史的変化を考察する。 戦後の日本の農牧業の変化を、政策や経済、特に農産物輸入の自由化と関連付けながら考察できる。 								
3	工業	6	春季特別授業 課題	<ul style="list-style-type: none"> 工業の立地要因や、立地条件による工業の分類、工業地域の形成要因などを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の分布を大地形の分布と関連づけながら考察することができる。 鉱産資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。 								

学年	2	学科	普通科(理系)	科目	地理B	単位数	2						
教科書	新編詳解地理B(二宮書店)、新詳高等地図(帝国書院)		副教材 問題集	新編地理資料2020(東京法令)、地理統計要覧2020(二宮書店)、サクシード地理(啓隆社)									
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。												
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 地図帳や写真・図表、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題の量や内容を十分に検討する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	第Ⅰ編 地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図と地域調査	8	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 地図は利用目的に応じて様々な形態があることを理解させる。 地形図やGISを用いて生活圏の地域的特色を捕らえる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図の発達の歴史、地図の種類を知る。また、デジタル化により、新しい地図ができ、地図の活用範囲が広がっていることが理解できる。 等高線、地図記号を理解し、地形図の読み取りができる。また、GISを用いて作られた地図から生活圏の地域的特色を捕らえることができる。 								
5	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 地形	12	期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 様々な要因によって構成される各種の地形の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 特徴的な小地形と人間生活との関わりを、具体事例を通して考察させる。 日本列島の地体構造や地形の特色について理解させ、豊かな自然や自然災害との関わりについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球のすがたを知り、海陸比や陸の偏り、陸の高度、海洋の深度の偏りについて理解出来る。 地殻変動によって作られた大地形を地域別に捕らえることができる。 山地、平野、海岸、氷河、カルストなどの地形の特色と分布を理解し、人間生活との関わりについて考えることができる。 日本付近のプレートの境界の位置を知り、それらにより生み出された地形や自然環境について理解出来る。 								
6	7	8	課題										
9	自然と生活	14	1 第3回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 気候環境を構成している気候要素、気候因子について、その基礎的知識を定着させる。 世界の気候区や土壤帯、植生の特色を理解させ、人間生活との関わりを考察させる。 日本列島の気候の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 人間生活が地球環境に及ぼす影響について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素について知り、風・気温・降水量が気候に与える影響について考えることができる。 緯度、隔海度、季節、気圧配置、地形、海流などの気候因子と降水量の関係が理解できる。 気候要素や大気循環を理解し、地域ごとの気候因子の違いをふまえて気候の違いを捕らえることができる。 気候と植生・土壤との関係が理解できる。 各気候の特徴を理解し、人間生活との関わりを考察することができる。 日本の気候に影響を与える気団・前線・季節風などが理解できる。 様々な環境問題が世界のどの地域に生じているのかを読み取り、問題の要因について考えることができます。 								
10	環境問題	14	中間考査										
11	2章 自然と産業 農林水産業	14	第4回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 気候の地域的特徴やその地域の社会的背景からその地域に適した農業について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の栽培条件や気候区分から農業の地域区分を考察できる。 農業地域の形成に文化・経済・政策などの社会条件も影響し、また工业化に伴って農業が変化していることが理解できる。 								
12	資源・エネルギー 工業	12	期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の林業・水産業の現状並びに問題点を考察させる。 日本の農業の特色を、世界の農牧業との比較を通して理解させる。 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捕らえる。 工業の立地要因や、立地条件による工業の分類を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の分布をふまえた林業の特色や、各国の林業政策やその背景について理解できる。 漁場の成立条件と、世界の主要漁場が理解できる。日本の水産業の特色と歴史的变化を考察する。 戦後の日本の農牧業の変化を、政策や経済、特に農産物輸入の自由化と関連付けながら考察できる。 資源の分布を大地形の分布と関連づけながら考察することができる。 鉱産資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。 ウェーバーの工業立地論を元に、工業と輸送費の関係について理解する。また、交通要因の変化が工業立地に変化をもたらしたことを探る。 								
1	2	3	課題										

学年	2	学科	人文社会学科 理数学科	科目	地理B	単位数	2			
教科書	新編詳解地理B（二宮書店）、新詳高等地図（帝国書院）		副教材 問題集	新編地理資料2020（東京法令）、地理統計要覧2020（二宮書店）、サクシード地理（啓隆社）						
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。									
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 地図帳や写真・図表、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 定期考查を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題の量や内容を十分に検討する。 									
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考		
4	第I編 地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図と地域調査 第II編 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 地形 気候 自然と生活 環境問題 2章 自然と産業 農林水産業 資源・エネルギー 工業	8	中間考查	<ul style="list-style-type: none"> 地図は利用目的に応じて様々な形態があることを理解させる。 地形図やGISを用いて生活圏の地域的特色を捕らえる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図の発達の歴史、地図の種類を知る。また、デジタル化により、新しい地図ができ、地図の活用範囲が広がっていることが理解できる。 等高線、地図記号を理解し、地形図の読み取りができる。また、GISを用いて作られた地図から生活圏の地域的特色を捕らえることができる。 					
5		12			<ul style="list-style-type: none"> 様々な営力によって構成される各種の地形の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 特徴的な小地形と人間生活との関わりを、具体事例を通して考察させる。 日本列島の地体構造や地形の特色について理解させ、豊かな自然や自然災害との関わりについて理解させる。 					
6		13			<ul style="list-style-type: none"> 地球のすがたを知り、海陸比や陸の偏り、陸の高度、海洋の深度の偏りについて理解出来る。 地殻変動によって作られた大地形を地域別に捕らえることができる。 山地、平野、海岸、氷河、カルストなどの地形の特色と分布を理解し、人間生活との関わりについて考えることができる。 日本付近のプレートの境界の位置を知り、それらにより生み出された地形や自然環境について理解出来る。 					
7		14	課題	<ul style="list-style-type: none"> 気候環境を構成している気候要素、気候因子について、その基礎的知識を定着させる。 世界の気候区や土壤帯、植生の特色を理解させ、人間生活との関わりを考察させる。 日本列島の気候の特色を理解させ、人間生活との関わりについて考察させる。 人間生活が地球環境に及ぼす影響について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素について知り、風・気温・降水量が気候に与える影響について考えることができる。 緯度、隔海度、季節、気圧配置、地形、海流などの気候因子と降水量の関係が理解できる。 気候要素や大気循環を理解し、地域ごとの気候因子の違いをふまえて気候の違いを捕らえることができる。 気候と植生・土壤との関係が理解できる。 各気候の特徴を理解し、人間生活との関わりを考察することができる。 日本の気候に影響を与える気団・前線・季節風などが理解できる。 様々な環境問題が世界のどの地域に生じているのかを読み取り、問題の要因について考えることができる。 					
8		15			<ul style="list-style-type: none"> 作物の栽培条件や気候区分から農業の地域区分を考察できる。 農業地域の形成に文化・経済・政策などの社会条件も影響し、また工业化に伴って農業が変化していることが理解できる。 					
9		16	中間考查	<ul style="list-style-type: none"> 気候の地域的特徴やその地域の社会的背景からその地域に適した農業について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の分布をふまえた林業の特色や、各国の林業政策やその背景について理解できる。 漁場の成立条件と、世界の主要漁場が理解できる。日本の水産業の特色と歴史的变化を考察する。 戦後の日本の農牧業の変化を、政策や経済、特に農産物輸入の自由化と関連付けながら考察できる。 					
10		17			<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の林業・水産業の現状並びに問題点を考察させる。 日本の農業の特色を、世界の農牧業との比較を通して理解させる。 					
11		18	第4回実力テスト 期末考查	<ul style="list-style-type: none"> 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捕らえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の分布を大地形の分布と関連づけながら考察することができる。 鉱産資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。 					
12		19			<ul style="list-style-type: none"> 工業の立地要因や、立地条件による工業の分類を理解させる。 					
1		20	春季特別授業 課題	<ul style="list-style-type: none"> ウェーバーの工業立地論を元に、工業と輸送費の関係について理解する。また、交通要因の変化が工業立地に変化をもたらしたことを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ウエーバーの工業立地論を元に、工業と輸送費の関係について理解する。また、交通要因の変化が工業立地に変化をもたらしたことを探る。 					
2		21								
3		22								

学年	3	学科	普通科（文系）	科目	地理B	単位数	4				
教科書	新編 詳解地理B 改訂版（二宮書店） 新詳高等地図（帝國書院）			副教材 問題集	新編地理資料2019(東京法令)、新地理の研究(啓隆社)、 2019データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店)、 Wi ニングコンパス(東京法令)						
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。										
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 2年次までの既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 地図帳や写真・図表、体験談などを活用し、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 定期考查を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。課題は提出が目的ではなく、生徒自身の学習内容の定着が目的である。 課題の量や内容を十分に検討する。 										
月 学期	単元名・項目	時間	テキスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考			
4	第2章 資源と産業 第2節 資源・エネルギー 2. 世界のエネルギー資源 3. 世界の原料資源	16	第1回進学模試	・世界のエネルギー・鉱資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捉えさせる。	・鉱資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。						
5	第3節 工業 1. 工業の成り立ち 2. 工業の立地 3. 世界の工業地域 ・ヨーロッパ ・アジア ・南北アメリカ ・ロシアと周辺諸国 ・日本			・立地条件による工業の分類、工業地域の形成要因などを考察させる。 ・世界諸地域における工業の現状を理解させながら、先進国と発展途上国の格差や問題点も合わせて確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェーバーの工業立地論を元に、輸送費や交通要因の変化が工業立地に変化をもたらしたことを理解する。 ・世界の諸地域の工業の特色を把握する。先進工業国の中、発展途上国の抱える問題など、グローバルな視点から考察する。 ・一次産品輸出国から工業化を図る国々のプロセスを考える。BRICSなど急速な発展を遂げる国々の現状を探る。工業化が困難な国々の現状も理解する。 ・先進国からの企業進出の様子を統計資料から確認したり、白地図を使って進出先をまとめる。先進国と発展途上国とによって企業進出の目的が違うことに気付き、その理由を考える。 						
6	第4節 流通と消費 1. 世界を結ぶ交通 2. 情報通信の発達 3. 世界の貿易 4. 商業環境の変化	24	第2回進学模試	・世界の交通網の地域差とその発達について考察させる。 ・情報化社会における現状と課題について考察させる。 ・国際分業について考える。 ・行動空間の急速な拡大と、消費・余暇活動の増大が、諸地域にさまざまな形で影響を与えていることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上交通、海上交通、航空交通の長短を理解し、国や地域によって各交通機関の発達の差異を考える。主な高速鉄道、自動車専用道路の例を確認する。 ・急速に進む情報化社会の現状を捉え、国家間格差など功罪を考える。 ・経済のグローバル化が進む現代世界において貿易のもつ重要性を考えることができる。 ・モータリゼーション化に伴う中心商店街の衰退と郊外の大型ショッピングセンターの進出などの事例から、行動圏や消費活動の変化を考える。 						
7	第3章 人口と村落・都市 第1節 人口 1. 世界の人口分布と人口増加 2. 人口増加地域の人口問題 3. 人口減少地域の人口問題 4. 日本の人口問題			・世界の人口分布の偏りを、自然環境や産業活動の面から考えさせる。国際的な人口移動の背景を理解させ、特に近年の外国人労働者の現状と問題点を考えさせる。食料問題の現状を人口問題と関連づけて考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口の推移と人口爆発、地域による人口動態の違いを理解する。 ・経済的理由などから生じる人口移動の例を考える。 ・発展途上国の人口問題、先進国の人口問題について、現状と取り組みについて事例を通して考える。 						
8	第2節 村落・都市 1. 村落の成り立ちと機能 2. 都市の発達と形態 3. 都市の拡大と都市圏 4. 都市・居住問題と解決への努力 5. 日本の村落・都市の課題	16	夏季特別編成授業 二次論述問題対策演習 第3回進学模試	・村落と都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解させる。 ・現代の都市の抱える諸問題について考えさせる。 ・必要に応じて、私大・国公立二次対策を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・集落や都市が立地する条件やその発達について理解できる。 ・地形図から集落の形態、地名から集落の成立期や機能などを読み取ることができる。 ・産業革命以降の都市の発展、機能分化、巨大都市・巨帯都市の形成などが理解できる。 ・先進国と発展途上国の都市問題の違いについて理解できる。プライメイトシティ、インナーシティ問題、都市の再開発などを考察する。 ・先進国における休日の増加などを背景にした余暇活動の変化と特色を把握できる。 						
9	第4章 生活文化と民族・宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 1. 世界の言語 2. 世界の宗教 第3節 民族と国家 1. 国家の形成と領域 2. 民族問題と領土問題 3. 国家間の結びつき 4. 國際連合の役割と課題 5. 日本の領域と領土問題			・世界の人種・民族のそれぞれの特徴を理解させる。 ・民族の多様性をめぐる諸問題について考察させる。 ・国家の三要素や国家の様々な形態、国家群について理解させ、国境をめぐる諸問題について考察させる。 ・必要に応じて、私大・国公立二次対策を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の主要言語と数多くの民族固有の言語があり、多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 ・世界の三大宗教と民族宗教の特徴を理解し、一国に多くの宗教が存在することから生じる問題点などを考える。 ・多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 ・国家群の変遷と国際社会のバランスを考える。国境をめぐる紛争を考察する。 						
10	第III編 現代世界の地誌的考察 1. アジア 2. アフリカ 3. ヨーロッパ 4. ロシア 5. アメリカ 6. オセアニア 7. 日本	20	中間考查	・世界の諸地域の自然環境、産業、民族問題、文化などをこれまでの学習を振り返りながら確認し、各地域・各国の特色を把握させる。	・世界の諸地域の地誌を中心にして、これまで学習してきた自然環境（地形・気候）、産業（農林水産業、鉱工業、貿易）、人種・民族、文化などを総合的に理解する。資料・地図帳を活用し、自分で工夫しながら白地図を用いて、各地域ごとに整理する。						
11	センター試験問題演習	24	第5回進学模試 二次論述問題対策演習 期末考查	・センター試験に対応する学力を身につけさせる。 ・必要に応じて、私大・国公立二次対策を実施							
12	二次論述問題対策演習										
12		28	冬季特別編成授業								

学年	3	学科	普通科(理系) 理数科学科	科目	地理B	単位数	3						
教科書	新編 詳解地理B 改訂版(二宮書店) 新詳高等地図(帝國書院)		副教材 問題集	新編地理資料2019(東京法令)、新地理の研究(啓隆社)、 2019データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店)、 WINGCOMPASS(東京法令)									
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。												
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 2年次までの既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 地図帳や写真・図表、体験談などを活用し、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。課題は提出が目的ではなく、生徒自身の学習内容の定着が目的である。 課題の量や内容を十分に検討する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テキスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	第2章 資源と産業 1. 世界のエネルギー資源 2. 世界の原料資源 3. 資源・エネルギーを巡る問題 第3節 工業 1. 工業の成り立ち 2. 工業の立地	12	第1回進学模試 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捉えさせる。 様々な工業の特色と立地条件について理解させる。 世界諸地域における工業の現状を理解しながら、先進国と発展途上国の格差や問題点も合わせて確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の分布を大地形の分布と関連づけながら考察できる。 鉱産資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。 ウェーバーの工業立地論を元に、工業と輸送費との関係について理解する。 各種工業の特徴を把握し、立地の変遷など自然条件や社会条件から考察する。 世界の諸地域の工業の特色を把握する。先進工業国の現状、発展途上国の抱える問題など、グローバルな視点から考察する。 一次産品輸出国から工業化を図る国々のプロセスを考える。BRICSなど急速な発展を遂げる国々の現状を探る。工業化が困難な国々の現状も理解する。 先進国からの企業進出の様子を統計資料から確認したり、白地図を使って進出先をまとめる。先進国と発展途上国によって企業進出の目的が違うことに気付き、その理由を考える。 								
5	3. 世界の工業地域 ・ヨーロッパ ・アジア ・南北アメリカ ・ロシアと周辺諸国 ・日本	18	期末考査	第2回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 世界の交通網の地域差とその発達について考察させる。 情報化社会における現状と課題について考察させる。 国際分業と貿易を考察させる。 行動空間の急速な拡大と、消費・余暇活動の増大が、諸地域にさまざまな形で影響を与えていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上交通、海上交通、航空交通の長短を理解し、国や地域によって各交通機関の発達の差異を考える。主な高速鉄道、自動車専用道路の例を確認する。 急速に進む情報化社会の現状を捉え、国家間格差など功罪を考える。 経済のグローバル化が進む現代世界において貿易のもつ重要性を考えることができる。 モータリゼーション化に伴う中心商店街の衰退と郊外の大型ショッピングセンターの進出などの事例から、行動圏や消費活動の変化を考える。 							
6	第4節 流通と消費 1. 世界を結ぶ交通 2. 情報通信の発達 3. 世界の貿易 4. 商業環境の変化	12	夏季特別編成授業	第3回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口分布の偏りを、自然環境や産業活動の面から考えさせる。国際的な人口移動の背景を理解させ、特に近年の外国人労働者の現状と問題点を考えさせる。食料問題の現状を人口問題と関連づけて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口の推移と人口爆発、地域による人口動態の違いを理解する。 経済的理由から生じる人口移動の例を考える。 発展途上国の人口問題、先進国の人口問題について、現状と取り組みについて事例を通して考える。 							
7	第1節 人口 1. 世界の人口分布と人口増加 2. 人口増加地域の人口問題 3. 人口減少地域の人口問題 4. 日本の人口問題	12	第4回進学模試	第4回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 村落と都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解させる。 現代の都市の抱える諸問題について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集落や都市が立地する条件やその発達について理解できる。 地形図から集落の形態、地名から集落の成立期や機能などを読み取ることができる。 産業革命以降の都市の発展、機能分化、巨大都市・巨帶都市の形成などが理解できる。 先進国と発展途上国との都市問題の違いについて理解できる。プライメイトシティ、インナーシティ問題、都市の再開発などを考察する。 先進国における休日の増加などを背景にした余暇活動の変化と特色を把握できる。 							
8	第2節 村落・都市 1. 村落の成り立ちと機能 2. 都市の発達と形態 3. 都市の拡大と都市圏 4. 都市・居住問題と解決への努力 5. 日本の村落・都市の課題	15	中間考査	第3回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人種・民族のそれぞれの特徴を理解させる。 民族の多様性をめぐる諸問題について考察させる。 国家の三要素や国家の様々な形態、国家群について理解させ、国境をめぐる諸問題について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主要言語と数多くの民族固有の言語があり、多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 世界の三大宗教と民族宗教の特徴を理解し、一国に多くの宗教が存在することから生じる問題点などを考える。 多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 国家群の変遷と国際社会のバランスを考える。国境をめぐる紛争を考察する。 							
9	第4章 生活文化と民族・宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 1. 世界の言語 2. 世界の宗教	18	期末考査	冬季特別編成授業	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の自然環境、産業、民族問題、文化などをこれまでの学習を振り返りながら確認し、各地域・各国の特色を把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の地誌を中心にして、これまで学習してきた自然環境(地形・気候)、産業(農林水産業、鉱工業、貿易)、人種・民族、文化などを総合的に理解する。資料・地図帳を活用し、自分で工夫しながら白地図を用いて、各地域ごとに整理していく。 							
10	第3節 民族と国家 1. 国家の形成と領域 2. 民族問題と領土問題 3. 国家間の結びつき 4. 國際連合の役割と課題 5. 日本の領域と領土問題	21	冬季特別編成授業	第5回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> センター試験に対応する学力を身につけさせる。 								
11	第Ⅲ編現代世界の地誌的考察 1. アジア 2. アフリカ 3. ヨーロッパ 4. ロシア 5. アメリカ 6. オセアニア 7. 日本	18	期末考査										
12	センター試験問題演習	21											
13													

学年	3	学科	人文社会学科	科目	地理B・地理研究	単位数	5						
教科書	新編 詳解地理B 改訂版（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材 問題集	新編地理資料2019(東京法令)、新地理の研究(啓隆社)、 2019データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店)、 ウイニングコンパス(東京法令)									
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。												
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 ・地図帳や写真・図表、体験談などを活用し、身近な事象との関連を図り、地理的事象の理解を定着させた上、理論的に十分思考し考察させる。 ・確認プリントや実力テストを定期的に実施し、基礎基本の定着及び、実力養成を図る。 ・定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 ・課題学習を定期的に行い、自主的に学ぶ姿勢を育てる。課題は提出が目的ではなく、生徒自身の学習内容の定着が目的である。 ・課題の量や内容を十分に検討する。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	第2章 資源と産業 1. 世界のエネルギー資源 2. 世界の原料資源 3. 資源・エネルギーを巡る問題 第3節 工業 1. 工業の成り立ち 2. 工業の立地	20	第1回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー・鉱資源の分布や生産と消費について、世界的視野で捉えさせる。 ・様々な工業の特色と立地条件について理解させる。 ・世界諸地域における工業の現状を理解しながら、先進国と発展途上国の格差や問題点も合わせて確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の分布を大地形の分布と関連づけながら考察できる。 ・鉱資源の世界的な分布や需給について理解できる。エネルギーの有限性と偏在性を通して代替エネルギーの開発について考える。 ・ウェーバーの工業立地論を元に、工業と輸送費との関係について理解する。 ・各種工業の特徴を把握し、立地の変遷など自然条件や社会条件から考察する。 ・世界の諸地域の工業の特色を把握する。先進工業国の中、発展途上国の中の抱える問題など、グローバルな視点から考察する。 ・一次産品輸出国から工業化を図る国々のプロセスを考える。BRICSなど急速な発展を遂げる国の現状を探る。工業化が困難な国の中の現状も理解する。 ・先進国からの企業進出の様子を統計資料から確認したり、白地図を使って進出先をまとめる。先進国と発展途上国によって企業進出の目的が違うことに気付き、その理由を考える。 								
5	3. 世界の工業地域 ・ヨーロッパ ・アジア ・南北アメリカ ・ロシアと周辺諸国 ・日本		中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の交通網の地域差とその発達について考察させる。 ・情報化社会における現状と課題について考察させる。 ・国際分業と貿易を考察させる。 ・行動空間の急速な拡大と、消費・余暇活動の増大が、諸地域にさまざまな形で影響を与えていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上交通、海上交通、航空交通の長短を理解し、国や地域によって各交通機関の発達の差異を考える。主な高速鉄道、自動車専用道路の例を確認する。 ・急速に進む情報化社会の現状を捉え、国家間格差など功罪を考える。 ・経済のグローバル化が進む現代世界において貿易のもつ重要性を考えることができる。 ・モータリゼーション化に伴う中心商店街の衰退と郊外の大型ショッピングセンターの進出などの事例から、行動圏や消費活動の変化を考える。 								
6	第4節 流通と消費 1. 世界を結ぶ交通 2. 情報通信の発達 3. 世界の貿易 4. 商業環境の変化	30	期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布の偏りを、自然環境や産業活動の面から考えさせる。国際的な人口移動の背景を理解させ、特に近年の外国人労働者の現状と問題点を考えさせる。食料問題の現状を人口問題と関連づけて考えさせる。 								
7	第1節 人口 1. 世界の人口分布と人口増加 2. 人口増加地域の人口問題 3. 人口減少地域の人口問題 4. 日本の人口問題	20	夏季特別編成授業	<ul style="list-style-type: none"> ・村落と都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解させる。 ・現代の都市の抱える諸問題について考えさせる。 ・世界の人種・民族のそれぞれの特徴を理解させる。 ・民族の多様性をめぐる諸問題について考察させる。 ・国家の三要素や国家の様々な形態、国家群について理解させ、国境をめぐる諸問題について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口の推移と人口爆発、地域による人口動態の違いを理解する。 ・経済的理由から生じる人口移動の例を考える。 ・発展途上国の人口問題、先進国の人口問題について、現状と取り組みについて事例を通して考える。 								
8			第3回進学模試		<ul style="list-style-type: none"> ・集落や都市が立地する条件やその発達について理解できる。 ・地形図から集落の形態、地名から集落の成立期や機能などを読み取ることができる。 ・産業革命以降の都市の発展、機能分化、巨大都市・巨帯都市の形成などが理解できる。 ・先進国と発展途上国との都市問題の違いについて理解できる。プライマリティ、インナーシティ問題、都市の再開発などを考察する。 ・先進国における休日の増加などを背景にした余暇活動の変化と特色を把握できる。 								
9	第2節 村落・都市 1. 村落の成り立ちと機能 2. 都市の発達と形態 3. 都市の拡大と都市圈 4. 都市・居住問題と解決への努力 5. 日本の村落・都市の課題	25	第4回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の主要言語と数多くの民族固有の言語があり、多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 ・世界の三大宗教と民族宗教の特徴を理解し、一国に多くの宗教が存在することから生じる問題点などを考える。 ・多民族国家の抱える問題点を理解し、今世界でおきている紛争等を考える。 ・国家群の変遷と国際社会のバランスを考える。国境をめぐる紛争を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域の自然環境、産業、民族問題、文化などをこれまでの学習を振り返りながら確認し、各地域・各国の特色を把握させる。 								
10	第3節 民族と国家 1. 国家の形成と領域 2. 民族問題と領土問題 3. 国家間の結びつき 4. 國際連合の役割と課題 5. 日本の領域と領土問題		中間考査		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域の地誌を中心にして、これまで学習してきた自然環境(地形・気候)、産業(農林水産業、鉱工業、貿易)、人種・民族、文化などを総合的に理解する。資料・地図帳を活用し、自分で工夫しながら白地図を用いて、各地域ごとに整理していく。 								
11	第Ⅲ編現代世界の地誌的考察 1. アジア 2. アフリカ 3. ヨーロッパ 4. ロシア 5. アメリカ 6. オセアニア 7. 日本	35	第5回進学模試	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験に対応する学力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域の地誌を中心にして、これまで学習してきた自然環境(地形・気候)、産業(農林水産業、鉱工業、貿易)、人種・民族、文化などを総合的に理解する。資料・地図帳を活用し、自分で工夫しながら白地図を用いて、各地域ごとに整理していく。 								
12	センター試験問題演習		期末考査										
12		冬季特別編成授業											

学年	1	学科	普通科	科目	現代社会	単位数	2	
教科書	「高校現代社会」実教出版			副教材 問題集	「最新図説 現社」浜島書店 「ニューコンパス現代社会」とうほう			
目標	1 社会的な事象に関する基本的な知識を身につけ、現代社会の様々な問題についての理解を深める 2 人間としての在り方生き方について考える力を身につけさせる 3 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる							
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校で学んできた「公民」の知識のばらつきを意識しながら基本的な事柄について確認しながら授業を進める。 新聞を活用し、実際のニュースと教科書の内容を関連づけて考えられるように工夫する。 授業の中で関連図書を紹介し、自ら進んで知識を深める活動を促す。 定期考查を節目として課題の提出を促し、基礎学力の定着を図る。 倫理・政経・地歴との関連を考慮し、その基本となる知識を身につけられるよう、授業の内容を充実させる。 							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考
4	第1編 現代社会の諸問題							
5	1章 地球環境を考える。 ①地球環境問題 ②地球環境問題への取り組み ③資源・エネルギー・人口問題	7		◎現代社会の諸問題について、中学で学んだ知識をもとにしながらその奥行きの深さを認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの問題の概要を説明するとともに、具体的な事例を挙げ、実感をもって考えられるように留意する。 地歴公民科のスタートとして問題意識を持つことができたか。 			
6	2章 科学技術の発達と生命 ①現代の医学が問う生死のあり方		中間考查					
7	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方							
8	6章 現代の経済社会と政府の役割 ①経済社会 ②市場 ③企業 ④景気変動	12		◎現代社会における企業や政府の働きについて理解させる。 ・前編と関連付けながら技術革新による産業構造の変化や現代企業の変貌、市場の寡占化を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 技術革新と寡占・市場の失敗との関連が理解できたか。 現代の市場経済の特質と現代企業の特徴が理解できたか。 			
9	7章 特別授業		グループ活動	・現代社会に関する話し合い ・時事問題 ・税の作文を意識した内容	<ul style="list-style-type: none"> 記事の内容が理解できたか。 自ら関心を持って調査・研究を行ったか。 レポートを要領よくまとめることができたか。 			
10	8章 ⑤金融機関 ⑥財政	14		・金融の役割、日銀や政府の役割や働きを理解させる。 ・金融の国際化・自由化を知る。 ・日本の財政上の課題を知る	<ul style="list-style-type: none"> 日銀の金融政策と政府の経済政策が理解できたか 現在の財政危機の現状を統計資料から読み取れるか 政府・日銀の財政金融政策とバブル経済や財政危機とのかかわりがとらえられているか 			
11	9章 経済活動のあり方と国民福祉 ①日本経済の歩み ②中小企業と農業 ③公害 ④消費者問題 ⑤労働問題 ⑥社会保障	14		・戦後の日本経済の歩みを理解する。 ・日本の農業の特色と課題を理解する。 ・高度経済成長の影で起きた諸問題について理解を深める。 ・労働者の権利を保護する法律制度の特徴を理解させる。 ・日本の社会保障制度の特徴と課題を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長、バブル崩壊などの時代の特徴が理解できたか 農業等の日本の各産業の特徴と近年の取り組みが理解できたか 公害や消費者問題が起きた背景が理解できたか 労働者を取り巻く環境の変遷と近年の法律等の整備状況について理解できたか 			
12	10章 冬季特別授業							
1	11章 4章 日本国憲法と国民生活 ①日本国憲法の成立 ②平和主義と日本の安全	16		・憲法の制定経緯、相違点を理解させる。 ・平和主義の意義、自衛隊の役割について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 2つの憲法の相違点について理解できたか 日本の防衛政策の変遷について理解できたか 			
2	12章 ⑧選挙と政党 ⑨政治参加と世論		学年末考查	・選挙の役割と原則について理解させる。 ・日本の選挙制度の特徴と課題を理解させる。 ・日本の政党政治の特徴と課題を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の現在の選挙制度と課題について、理解できたか 日本の政党政治の特徴について理解できたか 			

学年	1	学科	普通科	教科	数学α(数学Ⅰ+数学Ⅱ)	単位数	数学Ⅰ 2.5 数学Ⅱ 0.5	
教科書	「改訂版 高等学校 数学Ⅰ」数研出版 「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」数研出版		副教材 問題集	「改訂版 アクションブック 数学Ⅰ+A」啓林館 「改訂版 アクションブック 数学Ⅱ+B」啓林館 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A」東京書籍 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B」東京書籍				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数及び方程式と不等式についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と計算処理技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 三角関数、データの分析について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 図形と方程式の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 							
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 年間や学期ごとの学習計画や実力テストの範囲、学習課題をあらかじめ示すことにより、計画的な学習を促す。 単元等が定期考査をまたぐことないようにし、既習事項が定着しているか考査で確認し、生徒の実態を把握する。また、生徒の知的好奇心を刺激し、学ぼうとする意欲を高めるため、工夫して教材を作成する。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 実力テストを定期的に実施し、基本を定着させるとともに、実力養成を図る。また、結果を分析し、弱点分野の強化に努める。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 生徒への加重な負担にならないよう課題の量や内容を十分に検討し、効果的な指導を行う。 力のある生徒には研究的な問題を提示し、伸び残しのないよう留意する。 							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)	備考		
4	【数学Ⅰ】 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	11	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関数のグラフについて理解する。 2次関数のグラフが的確に描けるようになる。 与えられた諸条件より、関数を表す式を決定できる。 			
5	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	2						
6	期末考査	6		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べる方法を身につける。 グラフから関数の値の符号を読み取り、2次不等式が解けるようになる。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 			
7		8						
8	夏季特別授業	7		<ul style="list-style-type: none"> 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位偏差、分散、標準偏差などについて理解する。 散布図や相関係数の意味を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 			
9		6						
10	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形の応用	11	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び图形の計量の基本的な性質について理解させる。 角の大きさなどを用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正弦・余弦・正接の定義を理解する。 三角比の相互関係について理解する。 三角比を実際に图形に応用できるように、定理について理解する。 正弦定理・余弦定理を具体的な問題で適用できるようになる。 空間图形でも同様に定理が適用できるようになる。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 			
11	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその割り算 5 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	4						
12	期末考査	6		<ul style="list-style-type: none"> 二項定理を理解させる。 多項式の除法および分数式の計算方法を理解させる。 恒等式および絶対不等式の意味と、等式・不等式の証明方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 多項式の除法の意味と方法を理解する。 分数式の計算の方法を理解する。 恒等式の意味と絶対不等式の意味を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 課題への取り組みを評価する。 			
1		10						
2	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用 第2節 加法定理 6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用	9	冬季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> 角を一般角に拡張する過程を理解させ、一般角に対する三角関数の概念を考察させる。 三角関数の性質を理解させ、グラフをかけるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 弧度法の定義について理解する。 三角比を一般角まで拡張し、関数として取り扱う。 三角関数の相互関係について理解する。 三角関数のグラフが描けるようになる。 三角関数の加法定理を理解する。 2倍角、半角の公式、三角関数の合成を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 			
3	9							
	学年末考査							
	春季特別授業							

学年	1	学科	普通科	教科	数学β (数学A+数学II)	単位数	数学I 0.5 数学A 2 数学II 0.5	
教科書	「改訂版 高等学校 数学Ⅰ」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学A」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学II」 数研出版		副教材 問題集	「改訂版 ア'パンズ'ラス 数学Ⅰ+A」 啓林館 「改訂版 ア'パンズ'ラス 数学Ⅱ+B」 啓林館 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A」 東京書籍 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B」 東京書籍				
目標	・集合と論理及び場合の数と確率についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 ・図形の性質、複素数についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。							
具体的な取り組み ・指導上の留意点	・年間や学期ごとの学習計画や実力テストの範囲、学習課題をあらかじめ示すことにより、計画的な学習を促す。 ・単元等が定期考査をまたぐことないようにし、既習事項が定着しているか考査で確認し、生徒の実態を把握する。また、生徒の知的好奇心を刺激し、学ぼうとする意欲を高めるため、工夫して教材を作成する。 ・身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 ・実力テストを定期的に実施し、基本を定着させるとともに、実力養成を図る。また、結果を分析し、弱点分野の強化に努める。 ・定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 ・生徒への加重な負担にならないよう課題の量や内容を十分に検討し、効果的な指導を行う。 ・力のある生徒には研究的な問題を提示し、伸び残しのないよう留意する。							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ペイント)			備考
4	【数学Ⅰ】 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	8		・数や式の計算の基本法則や、式の加減乗法の根拠を理解させ、効率よく多项式の計算を行う能力を養成する。 ・実数と数直線上の点との対応を理解させる。絶対値の基本的な性質を理解させる。 ・根号を含む式の計算を行う能力を養成する。 ・1次不等式2次不等式の解法課程を理解させる。	・多项式の整理や展開など、基本的な計算処理をることができる。 ・因数分解の公式を理解し、目的に応じてそれを活用することができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。			
5	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 【数学A】 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ	2	中間考査		・実数(自然数、整数、有理数、無理数)を体系的に理解することができる。 ・平方根を含む式の計算をすることができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。			
6		8	期末考査	・図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばす。 ・具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解させる。	・もなく、重複なく的確に場合の数を数え上げる。 ・和の法則・積の法則を利用できるようになる。 ・種々の問題に法則を利用する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。			
7			夏期特別授業					
8								
9	第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チバ・メカニの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図	10		・具体的な事象の考察などを通して、確率について理解させる。 ・不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。	・確率の意味を理解する。 ・確率の基本性質を理解する。 ・独立試行、反復試行での確率の求め方を理解する。 ・期待値の意味と求め方を理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。			
10	第2節 空間図形 8 直線と平面 9 空間图形と多面体 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 第2節 ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 5 分数と小数 6 n進法	5	中間考査	・基本的な图形の性質について理解を深め、图形の見方を豊かにするとともに、图形の性質を論理的に考察し処理できるようになる。	・三角形の辺の大小関係、角の大小関係を調べる。 ・三角形の外心、内心、重心の性質を理解する。 ・円周角の性質を理解する。 ・円に内接する四角形の性質を理解する。 ・方べきの定理を理解し、証明等に利用できるようになる。			
11		11	期末考査		・ユークリッドの互除法を理解させる。 ・1次不定方程式、整数解の意味を理解している ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。			
12	【数学Ⅱ】 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係		冬季特別授業	・2つの直線の平行条件および垂直条件を理解させる。	・2直線の位置関係について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。			
1	第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 第5章 指数・対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数	11		・円と直線の位置関係について理解させる。 ・不等式を満たす点の集合が座標平面の一部分を表すことをりかいさせる。 ・軌跡の概念を理解させ、方程式を求めることができるようになる。	・円の方程式について理解する。 ・与えられた条件から軌跡の方程式を導くことができる。 ・不等式と領域についての知識を身につけることができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。			
2		8	学年末考査		・指数関数について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。			
3	第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数		春季特別授業		・対数関数について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。			

学年	1	学科	理数学科 人文社会学科	教科	数学α (理数数学Ⅰ)	単位数	理数数学Ⅰ 3		
教科書	「改訂版 高等学校 数学Ⅰ」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」 数研出版		副教材 問題集	「改訂版 アクションアブレ マス 数学Ⅰ+A」 喜林館 「改訂版 アクションアブレ マス 数学Ⅱ+B」 喜林館 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A」 東京書籍 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B」 東京書籍					
目標	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数及び方程式と不等式についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と計算処理技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 三角関数、データの分析について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 図形と方程式の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 								
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 年間や学期ごとの学習計画や実力テストの範囲、学習課題をあらかじめ示すことにより、計画的な学習を促す。 単元等が定期考査をまたぐことないようにし、既習事項が定着しているか考査で確認し、生徒の実態を把握する。また、生徒の知的好奇心を刺激し、学ぼうとする意欲を高めるため、工夫して教材を作成する。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 実力テストを定期的に実施し、基本を定着させるとともに、実力養成を図る。また、結果を分析し、弱点分野の強化に努める。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 生徒への加重な負担にならないよう課題の量や内容を十分に検討し、効果的な指導を行う。 力のある生徒には研究的な問題を提示し、伸び残しのないよう留意する。 								
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考	
4	【数学Ⅰ】 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	11	中間考査	・2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する。	<ul style="list-style-type: none"> 関数のグラフについて理解する。 2次関数のグラフが的確に描けるようになる。 与えられた諸条件より、関数を表す式を決定できる。 				
5	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	2		・具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べる方法を身につける。 グラフから関数の値の符号を読み取り、2次不等式が解けるようになる。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 				
6	期末考査	8	夏季特別授業	・統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 四分位偏差、分散、標準偏差などについて理解する。 散布図や相関係数の意味を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 				
7	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関	7		・直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び图形の計量の基本的な性質について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 正弦・余弦・正接の定義を理解する。 三角比の相互関係について理解する。 三角比を実際に图形に応用できるように、定理について理解する。 正弦定理・余弦定理を具体的な問題で適用できるようになる。 空間图形でも同様に定理が適用できるようになる。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 				
8	6	中間考査	・角の大きさなどを用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 二項定理を理解させる。 多項式の除法および分数式の計算方法を理解させる。 恒等式および絶対不等式の意味と、等式・不等式の証明方法を理解させる。 基礎知識の定着を評価する。 課題への取り組みを評価する。 					
9	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間图形の応用		11	・二項定理をバスカルの三角形と結び付けて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の除法の意味と方法を理解する。 分数式の計算の方法を理解する。 恒等式の意味と絶対不等式の意味を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 課題への取り組みを評価する。 				
10	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその割り算 5 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	4	期末考査	・二項定理を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の除法の意味と方法を理解する。 分数式の計算の方法を理解する。 恒等式の意味と絶対不等式の意味を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 課題への取り組みを評価する。 				
11		6		・角を一般角に拡張する過程を理解させ、一般角に対する三角関数の概念を考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> 弧度法の定義について理解する。 三角比を一般角まで拡張し、関数として取り扱う。 三角関数の相互関係について理解する。 三角関数のグラフが描けるようになる。 三角関数の加法定理を理解する。 2倍角、半角の公式、三角関数の合成を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 				
12		10	冬季特別授業						
1	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用	9	学年末考査	・角を一般角に拡張する過程を理解させ、一般角に対する三角関数の概念を考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> 弧度法の定義について理解する。 三角比を一般角まで拡張し、関数として取り扱う。 三角関数の相互関係について理解する。 三角関数のグラフが描けるようになる。 三角関数の加法定理を理解する。 2倍角、半角の公式、三角関数の合成を理解する。 基礎知識の定着を評価する。 演習問題に取り組む姿勢を評価する。 課題への取り組みを評価する。 授業の評価をする。 				
2	第2節 加法定理 6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用	9							
3			春季特別授業						

学年	1	学科	理数科学科 人文社会学科	教科	数学β (理数数学I + 理数SS数学A)	単位数	理数数学I 1 理数SS数学A 2	
教科書	「改訂版 高等学校 数学Ⅰ」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学A」 数研出版 「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」 数研出版	副教材 問題集	「改訂版 アドバンスブックス 数学Ⅰ+A」 啓林館 「改訂版 アドバンスブックス 数学Ⅱ+B」 啓林館 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A」 東京書籍 「改訂版 NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B」 東京書籍					
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集合と論理及び場合の数と確率についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 ・図形の性質、複素数についての概念を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 							
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・年間や学期ごとの学習計画や実力テストの範囲、学習課題をあらかじめ示すことにより、計画的な学習を促す。 ・単元等が定期考査をまたぐことないようにし、既習事項が定着しているか考査で確認し、生徒の実態を把握する。また、生徒の知的好奇心を刺激し、学ぼうとする意欲を高めるため、工夫して教材を作成する。 ・身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 ・実力テストを定期的に実施し、基本を定着させるとともに、実力養成を図る。また、結果を分析し、弱点分野の強化に努める。 ・定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 ・生徒への加重な負担にならないよう課題の量や内容を十分に検討し、効果的な指導を行う。 ・力のある生徒には研究的な問題を提示し、伸び残しのないよう留意する。 							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考
4	【数学Ⅰ】 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	8	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・数や式の計算の基本法則や、式の加減乗法の根拠を理解させ、効率よく多項式の計算を行う能力を養成する。 ・実数と数直線上の点との対応を理解させる。絶対値の基本的な性質を理解させる。 ・根号を含む式の計算を行う能力を養成する。 ・1次不等式2次不等式の解法課程を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多项式の整理や展開など、基本的な計算処理をすることができる。 ・因数分解の公式を理解し、目的に応じてそれを活用することができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。 ・実数(自然数、整数、有理数、無理数)を体系的に理解することができる。 ・平方根を含む式の計算をすることができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。 ・集合の表し方、考え方を理解する。 			
5		2						
6	【数学A】 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ	8	期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばす。 ・具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もれなく、重複なく的確に場合の数を数え上げる。 ・和の法則・積の法則を利用できるようになる。 ・種々の問題に法則を利用する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。 			
7								
8			夏期特別授業					
9	第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 ルート・ペリメータの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図	10		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象の考察などを通して、確率について理解させる。 ・不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようする。 ・基本的な図形の性質について理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確率の意味を理解する。 ・確率の基本性質を理解する。 ・独立試行、反復試行での確率の求め方を理解する。 ・期待値の意味と求め方を理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。 ・三角形の辺の大小関係、角の大小関係を調べる。 ・三角形の外心、内心、重心の性質を理解する。 ・円周角の性質を理解する。 ・円に内接する四角形の性質を理解する。 ・方べきの定理を理解し、証明等に利用できるようになる。 			
10	第2節 空間図形 8 直線と平面 9 空間图形と多面体	5	中間考査					
11	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 第2節 ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 5 分数と小数 6 両進法	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ユークリッドの互除法を理解させる。 ・1次不定方程式の原理と解き方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互除法の原理に興味・関心をもつ。 ・1次不定方程式、整数解の意味を理解している。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・演習問題に取り組む姿勢を評価する。 ・課題への取り組みを評価する。 ・授業の評価をする。 			
12	【数学Ⅱ】 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係		冬季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの直線の平行条件および垂直条件を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2直線の位置関係について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。 			
1	第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 第5章 指数・対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数	11		<ul style="list-style-type: none"> ・円と直線の位置関係について理解させる。 ・不等式を満たす点の集合が座標平面の一部分を表すことをりかいさせる。 ・軌跡の概念を理解させ、方程式を求めることができるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式について理解する。 ・与えられた条件から軌跡の方程式を導くことができる。 ・不等式と領域についての知識を身につけることができる。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。 ・指数関数について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。 			
2		8	学年末考査					
3	第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数				<ul style="list-style-type: none"> ・対数関数について理解する。 ・基礎知識の定着を評価する。 ・授業の評価をする。 			

学年	1	学科	普通科	教科	物理基礎	単位数	2					
教科書	「改定版 新編 物理基礎」数研出版		副教材 問題集	「リードα物理基礎」「フォローアップドリル物理基礎」「フォトサイエンス物理図鑑」数研出版「物理実験テキスト」								
目標	1. 基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 物理的な事物・事象についての観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てる。 3. 科学的な自然観を育成する。											
・具体的な取り組み ・指導上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合は、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認するなど、導入に工夫する。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考し、考察できるように指導する。 定期考査や実力テストを利用し、基礎学力の定着及び、応用力養成を図る。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 課題学習を行わせ、自主的に学ぶ姿勢を育てる。また、課題提出などをさせ評価する。課題の量や内容を十分に検討する。 系統的に各分野を学ぶことにより、知識の定着と学習効率の向上を図る。 										
月 学 期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)	備考						
1 学 期	オリエンテーション	1										
	序章	2										
	I 物理と私たち											
	II 物理の歴史											
	III 物理量の測定と扱い方											
	第1部 運動とエネルギー											
	第1章 運動の表し方											
	第1節 速度	3	週末課題									
	第2節 加速度	2										
	第3節 落体の運動	2										
	章末問題	1	中間考査									
2 学 期	第2章 運動の法則											
	第1節 力	3	週末課題									
	第2節 運動の法則	3										
	第3節 様々な力と運動	4										
	章末問題	1	期末考査									
	第3章 仕事と力学的エネルギー											
	第1節 仕事	2										
	第2節 運動エネルギー	2										
	第3節 位置エネルギー	2										
	第4節 力学的エネルギーの保存	2										
3 学 期	探究活動	1										
	第2部 熱											
	第1章 熱とエネルギー											
	第1節 热と温度	2										
	第2節 热伝導	2										
	第3節 热の利用	3	中間考査									
	章末問題	1										
	第2章 波											
	第1章 波の伝わり方	3										
	第2節 波の性質	3										
	第3節 音波	2	週末課題									
	第4節 音波の振動	3										
	章末問題	2	期末考査									
	第3章 電気											
	第1節 静電気	1	週末課題									
	第2節 電流	2										
	第3節 交流と電磁波	3										
	章末問題	1										
	第4章 物理と社会											
	第1節 いろいろなエネルギーとその利用	3										
	章末問題	1										
	探究活動	2										
	終章 物理学が拓く世界	3										
	1 医療											
	2 情報通信											
	3 地震から建築物を守る技術		学年末考査									

学年	1	学科	理数学科・人文社会学科	教科	理数物理	単位数	2					
教科書	「改定版 新編 物理基礎」「物理」教研出版		副教材 問題集	「リードα物理基礎」「フォローアップドリル物理基礎」「フォトサイエンス物理図鑑」「物理実験テキスト」教研出版								
目標	1. 基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 物理的な事物・事象についての観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てる。 3. 科学的な自然観を育成する。											
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	・新しい单元に入る場合は、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認するなど、導入に工夫する。 ・身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考し、考察できるように指導する。 ・定期考査や実力テストを利用し、基礎学力の定着及び、応用力養成を図る。 ・定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒が自分の学習の自己評価をする。 ・課題学習を行わせ、自主的に学ぶ姿勢を育てる。また、課題提出などをさせ評価する。課題の量や内容を十分に検討する。 ・系統的に各分野を学ぶことにより、知識の定着と学習効率の向上を図る。											
月 期	単元名・項目	時間	添付・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)	備考						
1 学 期	オリエンテーション	1			・自然現象の不思議に興味を持ち、物理学を学ぶことでそれを解明していく意欲と態度を持つ。単位や有効数字についてきちんと扱う態度を持つ。							
	序章	2			・物理学の方法を理解し、探究活動の流れを知り、叙述・検証の過程を経て様々な現象を判断することが出来る。							
	I 物理と私たち				・グラフの書き方やデータ処理の仕方、発表の化力などを身につける。的確に整理や発表をすることが出来る。							
	II 物理の歴史				・物理基礎で学習することの意義やあらましを理解し、実験と理論の関係を認識することが出来る。							
	III 物理量の測定と長い方											
	第1部 運動とエネルギー											
	第1章 運動の表し方		週末課題		・中学校での運動の中で、どれが物理に該当するかを確認する。 ・等速直線運動については、中学校で学習していることに留意する。							
	第1節 速度	3			・加速度、運動方程式については、第2章で運動エネルギーを学習する際に利用することに留意する。							
	第2節 加速度	2			・2次元の運動については、物理で留意することに留意する。							
	第3節 落体の運動	2			・日常見慣れている様々な運動を、物理的な現象として、動きの規則性やその動きを生じさせている原因を明示しようという意欲が見られる。							
2 学 期	草木問題	1	中間考査		・運動の向きや速度・加速度などの運動の基礎となる量を理解し、それらを組み合わせて運動を物理学的に理解でき、運動の原因となる力を探る過程を通して運動の法則を理解し、さらには未知の運動を解くことができる。 ・速さ、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係を捉えることができる。また、動きを調べる際の基準点を変えて、運動を正しく表現できる。 ・運動に関する物理学の量的関係と向きに固める関係を理解し、運動の法則に基づき、様々な運動の規則性を見つけ、またそれらの運動を再現することができる。							
	第2章 運動の法則				・力と運動については、中学校で定性的に学習していることに留意する。							
	第1節 力	3	週末課題		・力とは何か理解する。 ・重さと質量の違いを理解する。 ・固体には弹性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。							
	第2節 運動の法則	3			・力の合成、分離、つまりなど、力の性質を理解する。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・摩擦力、浮力などのいろいろな力について理解する。							
	第3節 様々な力と運動	4			・慣性の法則を理解する。 ・力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 ・運動の法則を適用して運動方程式を立てて解き、力や加速度を求めるができる。 ・空気抵抗を受ける物体の運動について理解する。							
	草木問題	1	期末考査		・ものを走らせる力などと比較し、仕事をする能力について、位置、運動、熱といった一見異なるエネルギー間に換算できる量的法則があることを理解し、応用して活用できる。							
	第3章 仕事を力のエネルギー				・仕事を観察する際に、速さや力といった直接測定できる量を組み合わせ、運動エネルギーなどの新たな量的関係を新規しながら、様々な現象に対する意欲を燃やすこととして捉えようとする意欲が見られる。							
	第1節 仕事	2			・ものが運ばれるという事実を物理的な現象として捉え、運ばれた量と重みととなる動力源について、様々な類似現象を比較し、事象に共通する量的関係性を探ろうとしている。さらに、熱と仕事の関係に同心を持ち、熱がどういうものかを探求しようとする意欲が見られる。							
	第2節 運動エネルギー	2			・ものを走らせる力などと比較し、仕事をする能力について、位置、運動、熱といった一見異なるエネルギー間に換算できる量的法則があることを理解し、応用して活用できる。							
	第3節 位置エネルギー	2			・仕事を観察する際に、速さや力といった直接測定できる量を組み合わせ、運動エネルギーなどの新たな量的関係を新規しながら、様々な現象に対する意欲を燃やすこととして捉えようとする意欲が見られる。							
3 学 期	第4節 力学的エネルギーの保存	2			・熱のマクロ的な意味、ミクロ的な意味を理解する。							
	草木問題	1			・仕事を観察する際に、重さと質量の法則について理解する。							
	探究活動	2			・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。							
	第2部 热				・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解する、一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。							
	第1章 热とエネルギー				・熱のマクロ的な意味、ミクロ的な意味を理解する。							
	第1節 热と温度	2			・仕事を観察する際に、重さと質量の法則について理解する。							
	第2節 热量	2			・熱と温度の関係について理解する。							
	第3節 热の利用	3	中間考査		・熱と気体の膨張の関係については、物理で詳しく学習することに留意する。							
	草木問題	1										
	探究活動	2										
2 学 期	第2章 波				・波とは、媒質の運動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。							
	第1章 波の伝わり方	3			・波の式 $v=f\lambda$ を理解する。 ・波には横波と縦波があることを理解し、横波を横波に変換する方法を理解する。							
	第2節 波の性質	3			・横波と立波について理解する。 ・波の特徴的な性質として、波の独立性と重ね合わせの原理があることを理解する。							
	第3節 音波	2	週末課題		・重ね合わせの原理から定常波のでき方を理解し、定常波の性質を理解する。 ・波の反射について理解する。 ★波反射の現象に干渉があり、重ね合わせの原理から説明できることを理解する。							
	第4節 音波の振動	3			・音が波であり、音の伝わり方は波の性質を示すことを理解する。 ・音の三要素を理解し、波の性質が音としてどのような性質になるかを理解する。 ・音の重ね合せの原理から、うなりについて理解する。							
	草木問題	2	期末考査		・波の特徴・性質を理解し、その性質が日常の波動現象や音にどのように表されているかを考察し、さらに身近な現象の中にどのように波動現象が表されているかを考察することができる。							
	探究活動	2			・さまざまな波動現象を次第・順序を通して理解し、縱波と横波の相互変換や重ね合わせの原理から定常波やうなりなどを表現できる。							
	第3章 電気				・波長と振動数を用いた式が理解でき、重ね合わせの原理を用いて説明がつく様々な現象を、身近な波動現象の中に見出し、波動現象がどのようなものかという認識を持つことができる。							
	第1節 静電気	1	週末課題		・電荷電気・静電気について理解する。 ★クーロンの法則について理解する。							
	第2節 電流	2			・電流と電気について理解する。 ・ガードとガードド・トラジスタについて理解する。							
3 学 期	第3節 交流と電磁波	3			・電と電力、ジャール熱について理解する。 ★電池の放電と内部抵抗、ホールセンターリング回路やキルヒホフの法則について理解する。							
	草木問題	1			・電荷が場所から受けける力について理解する。 ・電荷が電場に反応する。							
	探究活動	2			・モーターと発電機の原理について理解する。 ・電流と交流の違い、交流の実効値について理解する。 ・変圧器について理解する。 ・電磁波の性質について理解する。							
	第4章 物理と社会				・電荷が紙に吸引される現象について観察でき、実験を実験できる。電流計、電圧計、検流計などの測定器を正しく使える技能を身につける。グラフ処理などを通じて法則性を統計できる。							
	第1節 いろいろなエネルギーとその利用	3			・日常生活で使うエネルギーについて興味・関心を持ち、その特徴などについて考えようとする。さらに、物理学がどのように社会に影響を与えるかについて興味を持ち、興味の態度が見られる。							
3 学 期	草木問題	1			・日常生活で使うエネルギーがどのように作られ、その過程が何のかということを探求し、エネルギーをどのように利用していくかを判断できる。さらに、技術エネルギーの利用のメリット・デメリットを把握し、その是非について判断できる。							
	探究活動	2			・身近に利用しているエネルギーについて観察して、それらの特性を理解できる。 太陽電池を使って太陽エネルギーから電力を取り出す実験でエネルギーの効率などを計算できる。							
	終章 物理学が拓く世界	3			・エネルギーの源と利用について理解し、物理的な侧面からエネルギーをきちんととらえることができる。							
3 学 期	1 医療											
	2 情報通信											
	3 地震から建築物を守る技術		学年末考査									

学年	2	学科	普通科・人文社会学科	科目	化学基礎	単位数	2						
教科書	化基316 「新版 化学基礎」新訂版 実教出版		副教材 問題集	サイエンスビュー 化学総合資料 四訂版(実教出版) 2020 必修アクセス 化学基礎(浜島書店)									
目標	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。												
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 実験・観察を通して探究力を高め、結果を考察する中で学習した内容の理解を深める。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 課題の量や内容を十分に検討し、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 												
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
4	序 化学と人間生活 1章 物質の構成 1節 物質の探究 1. 物質の種類と性質 2. 物質と元素 3. 物質の三態と熱運動 2節 物質の構成粒子 1. 原子の構造 2. イオンの生成 3. 周期表	8		<ul style="list-style-type: none"> 物質の分離から、単体、化合物、混合物を理解する。 粒子の熱運動と三態の関係を理解する。 原子の構造を理解する 元素と周期律に関して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物質を取り上げ、物質の分離・精製や元素の確認により、単体や化合物、混合物について理解する。 粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係により、状態変化が起こる事を理解する。 原子の構造と陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律及び電子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 								
5	実験 混合物の分離 2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1. イオン結合 2. イオン結晶	7	1学期中期考査		<ul style="list-style-type: none"> イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。分子からなる物質の性質を理解する。 金属結合と金属の性質を結びつける。 金属の結晶構造についても理解する。 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学の興味関心を高める。また、社会において物質が適切に使用されていることから化学が果たしている役割を理解する。 								
6	2節 共有結合と分子間力 1. 共有結合と分子間力 2. 共有結合からなる物質 3節 金属結合 1. 金属結合 2. 金属 4節 化学結合と物質 1. 結晶の分類 2. 化学結合と身のまわりの物質	12			<ul style="list-style-type: none"> イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。イオン結合が静電気的な引力によることとイオン結晶の性質を理解する。 共有結合は共有電子対を形成した結合であり、電子配置と関連付ける。分子からなる物質を分子式や構造式で表すことができる。配位結合や共有結合結晶についても理解する。 金属結合は自由電子が介在した結合であり、金属結合からできた物質の性質を理解する。 周期表と原子の電子配置、結合を関連づけて、物質の性質を理解する。 中学校で学習した有機物と無機物、金属と非金属の違いとプラスチックについての性質を確認する。 日常生活や社会で使われる物質の性質に注目し、これらの物質の化学的な働きを理解する。また、物質の有効性と危険性の評価に基づいて適切な使用量について考察し、化学が果たしている役割を理解する。 								
7			1学期期末考査										
8			第3回実力テスト										
9	3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 1. 原子量と分子量・式量 2. 物質量 3. 溶液の濃度	12		<ul style="list-style-type: none"> 物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量や気体の体積との関係について理解する。 溶液については溶液の体積と溶質の物質量との関係を表すモル濃度を理解する。また、モル濃度と質量パーセント濃度の換算を身につける。 化学反応式を用いて化学反応における物質の変化とその量的な関係について理解する。反応に関与する物質や質量や体積の間に成り立つ関係を物質量と関連づけて、化学反応における物質の変化量を化学反応式から求めることができるようになる。 								
10	4. 化学反応式 実験 アボガドロ定数を求める 実験 化学反応における量的関係	5	2学期中期考査		<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基については水素イオンの授受による定義やその強弱と電離度との関係を扱う。pHと水素イオン濃度や水の電離度との関係も理解する。 中和反応については、酸、塩基の値数と物質量との関係を理解する。その際、反応する酸、塩基の強弱と生成する塩の性質との関係も理解する。 食酢中の酢酸濃度を中和滴定実験で求めることで、器具の取り扱い方、実験操作、濃度計算の方法を学習する。 							
11	2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩 実験 食酢の濃度を調べる	10	第4回実力テスト										
12			2学期期末考査										
1	3節 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 酸化還元反応の起こりやすさ 実験 酸化剤と還元剤の反応	10	第5回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会の関わりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸化、還元の定義を酸素や水素の授受から電子の授受へと広げ、酸化と還元が常に同時に起こることを理解する。 酸化還元反応は、反応に関する原子やイオンの酸化数の増減により説明できるようになる。 日常生活や社会の関わりの例として漂白剤、電池、金属の精錬、電気分解の原理を理解する。 金属の酸化還元反応としては金属のイオン化傾向を関連づける。 酸化剤と還元剤を反応させることでどのような変化が起こるのか、実験を行い、実験の半反応式から電子の授受について理解を深める。 								
2	4. 身のまわりの酸化還元反応	10	学年末考査										
3	実験 金属の反応性と電池 実験 オキシドールの濃度を求める	4		<ul style="list-style-type: none"> 物質の変化に関する探究活動を通して、学習内容の理解を深め、化学的に探究する能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験により電池の原理を理解する。 酸化還元の化学反応式より量的な関係を理解し、未知濃度のオキシドール中の過酸化水素の濃度を滴定を使って求める。 								

学年	2	学科	普通科理系	科目	化学基礎・化学	単位数	2・1							
教科書	改訂 化学基礎（東京書籍）・改訂 化学（東京書籍）			副教材 問題集	ニューステップアップ化学基礎・化学（東京書籍） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）・他									
目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養い、さらに自然観を育む。 													
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 課題の量や内容を十分に検討し、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 													
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考						
4	【化学基礎】序編 化学と人間生活 1. 人間生活の中の化学 2. 化学とその役割 第1編 物質の構成 1章 物質の探求 1. 純物質と混合物 2. 化合物と元素 3. 物質の三態 探究 廉販の同素体	12		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学の興味関心を高める。また、社会において物質が適切に使用されていることから化学が果たしている役割を理解する。 物質の分離によって单体、化合物、混合物を理解する。 粒子の熱運動と三態の関係を理解する。 原子の構造を理解する。 元素と周期律に関して理解する。 イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で学習した有機物と無機物、金属と非金属の違いとプラスチックについて性質を確認する。 日常生活や社会で使われる物質の性質に注目し、これらの物質の化学的な働きを理解し、また、有効性と危険性の評価に基づいて適切な使用量について考察し、化学が果たしている役割を理解する。 身近な物質を取り上げ、物質の分離・精製や元素の確認により、单体や化合物、混合物について理解する。 粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係により、状態変化が起こる事を理解する。 原子の構造と陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律及び電子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。イオン結合が静電気的な引力によることとイオン結晶の性質を理解する。 			備考						
5	2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質 3章 化学結合 1. イオン 2. イオン結合	5												
	1学期中間考查													
	3. 共有結合 4. 配位結合 5. 分子間の結合 6. 金属結合	10			<ul style="list-style-type: none"> 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。分子からなる物質の性質を理解する。 金属結合と金属の性質を結びつける。 金属の結晶構造についても理解する。 									
6	7. 化学結合と物質の分類・用途 探究 分子の模型を組み立てる 第2編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量	18			<ul style="list-style-type: none"> 共有結合は共有電子対を形成した結合であり、電子配置と関連付ける。分子からなる物質を分子式や構造式で表すことができる。配位結合や共有結合結晶についても理解する。 金属結合は自由電子が介在した結合であり金属結合からできた物質の性質を理解する。 周期表と原子の電子配置、結合を関連付けて、物質の性質を理解する。 									
7	1学期期末考查													
8	第3回実力テスト													
9	2. 物質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係 探究 化学変化と量的関係 2章 酸と塩基 1. 酸と塩基	18			<ul style="list-style-type: none"> 物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 									
10	2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定 探究 中和滴定	7			<ul style="list-style-type: none"> 粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量や気体の体積との関係について理解する。 溶液については溶液の体積と溶質の物質量との関係を表すモル濃度を理解する。また、モル濃度と質量パーセント濃度の換算を身につける。 化学反応式を用いて化学反応における物質の変化とその量的な関係について理解する。反応に関与する物質や質量や体積の間に成り立つ関係を物質量と関連づけて、化学反応における物質の変化量を化学反応式から求めることができるようにになる。 酸、塩基については水素イオンの授受による定義やその強弱と電離度との関係を扱う。pHと水素イオン濃度や水の電離度との関係も理解する。 中和反応については、酸、塩基の値数と物質量との関係を理解する。その際、反応する酸、塩基の強弱と生成する塩の性質との関係も理解する。 									
11	2. 酸化剤と還元剤 探究 酸化還元反応 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応 探究 金属のイオン化傾向と電池	18	第4回実力テスト		<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会の関わりについて理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> 酸化、還元の定義を酸素や水素の授受から電子の授受へと広げ、酸化と還元が常に同時に起こることを理解する。 酸化還元反応は、反応に関する原子やイオンの酸化数の増減により説明できるようになる。 日常生活や社会の関わりの例として漂白剤、電池、金属の精錬、電気分解の原理を理解する。 金属の酸化還元反応としては金属のイオン化傾向を関連づける。 実験により電池の原理を理解する。 						
12	2学期期末考查													
1	【化学】第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態 2章 気体の性質 1. 気体 2. 気体の状態方程式	15	第5回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解する。 気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に伴うエネルギーの出入りについては、物質の融解熱、蒸発熱を扱う。物質の融点、沸点が化学結合や分子間力の種類に関することがわかる。 気体についてはボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式を導くことができる。分子量測定ができる。混合気体についても量的関係がわかる。 									
2	3章 溶液の性質 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド 4章 固体の構造	15		<ul style="list-style-type: none"> 溶解の仕組みを理解すること。溶解度を溶解平衡と関連づける。 身近な現象を通して溶媒と溶液の違いを理解する。 結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 溶解の仕組みは溶媒と溶質の組み合わせにより溶解のしやすさが異なることを粒子モデルで理解する。飽和溶液で溶解平衡が成り立っている事がわかる。気体の溶解度はヘンリーの法則がわかる。 希薄溶液の蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の原理がわかる。コロイドについても理解する。 イオン結晶、金属結晶の体心立方格子、面心立方格子、六方密構造の特徴がわかる。アモルファスについても理解する。 									
3	学年末考查	6		<ul style="list-style-type: none"> 単体や無機化合物の性質や反応に関する基本的概念や原理・法則及び周期表との関係を理解する。 単体や無機化合物について、人間生活と関連づけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単体や無機化合物の性質や反応などを、周期表と関連づけることができる。 無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点でとらえ、無機物質の工業的製造法などを科学的に考察できる。 単体や無機化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。 									

学年	2	学科	理数科学科	科目	理数化学	単位数	3				
教科書	化学基礎（東京書籍）・化学（東京書籍）			副教材 問題集	ニューステップアップ化学基礎・化学（東京書籍） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）・他						
目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養い、さらに自然観を育む。 										
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、学習するために必要な既習事項が定着しているかを確認しながら、生徒の実態を把握し、興味関心を喚起するため導入に工夫する。 視聴覚教材や演示実験を通して、目に見えない現象をイメージしやすくする。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 課題の量や内容を十分に検討し、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 										
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考			
4	【化学基礎】序編 化学と人間生活 1. 人間生活の中の化学 2. 化学とその役割 第1編 物質の構成 1章 物質の探求 1. 純物質と混合物 2. 化合物と元素 3. 物質の三態 探究・硫黄の同素体	12		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学の興味関心を高める。また、社会において物質が適切に使用されていることから化学が果たしている役割を理解する。 物質の分離によって单体、化合物、混合物を理解する。 粒子の熱運動と三態の関係を理解する。 原子の構造を理解する。 元素と周期律に関して理解する。 イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で学習した有機物と無機物、金属と非金属の違いとプラスチックについて性質を確認する。 日常生活や社会で使われる物質の性質に注目し、これらの物質の化学的な働きを理解し、また、有効性と危険性の評価に基づいて適切な使用量について考察し、化学が果たしている役割を理解する。 身近な物質を取り上げ、物質の分離・精製や元素の確認により、单体や化合物、混合物について理解する。 粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係により、状態変化が起こる事を理解する。 原子の構造と陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律及び電子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。イオン結合が静電気的な引力によることとイオン結晶の性質を理解する。 						
5	2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質 3章 化学結合 1. イオン 2. イオン結合	5									
	1学期中期考査										
6	3. 共有結合 4. 配位結合 5. 分子間の結合 6. 金属結合 7. 化学結合と物質の分類・用途 探究 分子の模型を組み立てる 第2編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係 探究 化学変化と量的関係	10		<ul style="list-style-type: none"> 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。分子からなる物質の性質を理解する。 金属結合と金属の性質を結びつける。 物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合は共有電子対を形成した結合であり、電子配置と関連付ける。分子からなる物質を分子式や構造式で表すことができる。配位結合や共有結合結晶についても理解する。 金属結合は自由電子が介在した結合であり金属結合からできた物質の性質を理解する。 周期表と原子の電子配置、結合を関連付けて、物質の性質を理解する。 粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量や気体の体積との関係について理解する。 溶液については溶液の体積と溶質の物質量との関係を表すモル濃度を理解する。また、モル濃度と質量パーセント濃度の換算を身につける。 化学反応式を用いて化学反応における物質の変化とその量的な関係について理解する。反応に関与する物質や質量や体積の間に成り立つ関係を物質量と関連づけて、化学反応における物質の変化量を化学反応式から求めることができるようになる。 						
7	1学期期末考査										
8	第3回実力テスト										
9	2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定 探究 中和滴定	18		<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基については水素イオンの授受による定義やその強弱と電離度との関係を扱う。pHと水素イオン濃度や水の電離度との関係も理解する。 中和反応については、酸、塩基の値数と物質量との関係を理解する。その際、反応する酸、塩基の強弱と生成する塩の性質との関係も理解する。 						
10	3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 探究 酸化還元反応 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応 探究 金属のイオン化傾向と電池	7									
	2学期中期考査										
11	1章 物質の状態 2章 気体の性質 1. 気体 2. 気体の状態方程式	18	第4回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会の関わりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸化、還元の定義を酸素や水素の授受から電子の授受へと広げ、酸化と還元が常に同時に起こることを理解する。 酸化還元反応は、反応に関する原子やイオンの酸化数の増減により説明できるようになる。 日常生活や社会の関わりの例として漂白剤、電池、金属の精錬、電気分解の原理を理解する。 金属の酸化還元反応としては金属のイオン化傾向を関連づける。 実験により電池の原理を理解する。 						
12	2学期期末考査										
1	3章 溶液の性質 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド 4章 固体の構造	15	第5回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解する。 気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に伴うエネルギーの出入りについては、物質の融解熱、蒸発熱を扱う。物質の融点、沸点が化学結合や分子間力の種類に関することがわかる。 気体についてはボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式を導くことができる。分子量測定ができる。混合気体についても量的関係がわかる。 						
2	第4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の單体と化合物 3章 典型金属元素の單体と化合物 4章 遷移元素の單体と化合物 ・遷移元素とその化合物	15		<ul style="list-style-type: none"> 溶解の仕組みを理解すること。溶解度を溶解平衡と関連づける。 身近な現象を通して溶媒と溶液の違いを理解する。 結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 溶解の仕組みは溶媒と溶質の組み合わせにより溶解のしやすさが異なることを粒子モデルで理解する。飽和溶液で溶解平衡が成り立っている事がわかる。気体の溶解度はヘンリーの法則がわかる。 希薄溶液の蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の原理がわかる。コロイドについても理解する。 イオン結晶、金属結晶の体心立方格子、面心立方格子、六方密構造の特徴がわかる。アモルファスについても理解する。 						
3	・金属イオンの分離・確認 5章 無機物質と人間生活 ・金属 ・セラミックス	6	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 単体や無機化合物の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則及び周期表との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単体や無機化合物の性質や反応などを、周期表と関連づけることができる。 無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点でとらえ、無機物質の工業的製造法などを科学的に考察できる。 単体や無機化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。 						

学年	1	学科	普通科	科目	生物基礎	単位数	2	
教科書	「改訂版 生物基礎」 教研出版			副教材 問題集	「八訂版 スクエア最新図説生物neo」第一学習社 「五訂版 リードα生物基礎」教研出版			
目標	「生物と遺伝子」では、多様な生物は共通の祖先に由来することと、生命40億年の歴史をつなぐDNAや生命活動について個体・細胞・分子レベルで理解させ、生物への関心を高める。 「生物の体内環境の維持」では、体内環境を維持する細胞・器官とその仕組みを理解させ、生命現象の緻密さ・繊細さを体系的に捉えさせる。 「生物の多様性と生態系」では、植生・バイオーム・生態系の概念を理解させ、科学的な自然観の育成を図る。							
具体的な取り組み ・指導上の留意点	・新しい単元に入る場合には、興味・関心を喚起するため、導入に工夫を凝らす。 ・身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 ・定期考査などをを利用して、基本事項の定着と理科的思考力・考察力の養成を図る。 ・定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒自身に学習の自己評価を行わせる。 ・内容や量を十分検討した課題を定期的に与え、完遂させることで、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 ・問題演習を通して十分な実力と応用力を育成する。							
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・実験	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考
4	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	5		・生物の多様性と共通性について理解させる。 ・単細胞生物と多細胞生物・細胞群体について理解させる。 ・生物に共通な特性を理解させる。 ・細胞には原核細胞と真核細胞があり、大きさも様々であることを実感させる。 ・基本的な細胞構造と細胞小器官(核・細胞質・細胞膜・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁)の特徴を理解させる。	・生物に多様性と共通性があることの意味について理解している。 ・個体をつくっているのは細胞であり、細胞の数は生物によって様々であることを理解している。 ・生物に共通な特性は、細胞でできている・代謝をする・遺伝情報としてDNAをもつ・恒常性を維持するなどがあることを理解している。 ・細胞には原核細胞と真核細胞があり、その大きさは様々であることを理解している。 ・細胞の中には様々な細胞小器官があり、それぞれの特徴や働きを理解している。			
5	2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	5	中間考査	・代謝(異化と同化)の概念を理解させる。 ・ATPの構造と働きを理解させる。 ・触媒としての酵素の働きを理解させる。 ・光合成と呼吸におけるエネルギー変換について理解させる。 ・共生説について理解させる。 ・顕微鏡とミクロメーターの使い方の慣れさせる。 ・DNAの構造を理解させる。 ・DNAの研究史を知らせる。 ・生体内で働くタンパク質の特性を理解させる。 ・セントラルドグマの概念を理解させる。 ・RNAの役割やタンパク質の合成過程を理解させる。 ・細胞分裂によって遺伝情報が分配されることを理解させる。	・代謝(異化と同化)の概念を理解している。 ・ATPがエネルギーの通貨として働くことを理解している。 ・生体内での酵素の働きを理解している。 ・光合成と呼吸は真逆の反応であり、それぞれの活動によってエネルギーを消費したり生成したりすることを理解している。 ・かつて、ミトコンドリアと葉緑体は別の生物で、それらが細胞に共生することによって細胞小器官となり現在の真核細胞ができたことを理解している。 ・顕微鏡を正しく扱うことができる。 ・ミクロメーターを使って、検査したものの長さを計算して求めることができる。 ・DNAの構造を理解している。 ・DNAに関する先人たちの研究について理解している。 ・タンパク質の構造と生体内で果たす機能を理解している。			
6	3. 遺伝情報の分配	7	細胞分裂の観察 期末考査	・すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことを理解させる。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。	・セントラルドグマの概念を理解している。 ・DNAの塩基配列が遺伝情報であることや、それを元にしてタンパク質を合成する過程(転写・翻訳)を理解し考察することができる。 ・体細胞分裂の仕組みを理解している。 ・細胞周期とDNA量の変化について理解している。 ・DNAの複製の仕方を理解している。 ・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで細胞の分化が生じていることを理解している。 ・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解している。			
7	2. だ腺染色体の観察 ・DNAの抽出実験	2	・だ腺染色体の観察	・観察を通じ、染色体、遺伝子、バフについて理解させる。	・遺伝子やバフについて理解している。 ・だ腺染色体の観察を行い、観察結果を科学的に考察できる。 ・DNAの抽出に用いる薬品の働きを理解している。 ・生物材料から正確にDNAを抽出できる。			
9	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体内環境としての体液	6		・恒常性の概念と体液について理解させる。 ・血液の成分と働き・酸素解離曲線について理解・考察させる。 ・体液の循環の仕方について理解させる。	・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを科学的に理解しようとしている。 ・血液の成分と働きや酸素解離曲線の意味を理解し考察できる。 ・ヒトの循環系には血管系とリンパ系があり、体液の循環に心臓や血管が果たす役割について理解している。			
10	2. 肾臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節	5	中間考査 ・ブタの腎臓の解剖	・血液の凝固の仕組みを理解させる。 ・肝臓と腎臓の働きについて理解させる。 ・体液の濃度調節の仕組みを理解させる。 ・自律神経系と内分泌系による体内環境の調節の仕組みを理解させる。	・血液凝固の仕組みを理解できる。 ・肝臓と腎臓それぞれの構造と機能について理解している。 ・体液の浸透圧の調節の仕方を理解している。 ・濃縮率の計算ができる、それを用いて考察できる。 ・自律神経の働きと心臓拍動の調節の仕組みを理解している。 ・ホルモンの働きやホルモン受容の関わり方を理解し考察できる。 ・水分量や血糖量、体温調節の仕組みを理解している。 ・I型とII型の糖尿病の原因について理解している。			
11	4. 免疫	7	期末考査	・生体の物理的・化学的防衛の仕方を理解させる。 ・免疫に関わる細胞や器官の働きを理解させる。 ・免疫のしくみと免疫疾患・免疫の応用について理解させる。	・異物の侵入を防ぐ方法として、物理的防衛と化学的防衛があることと、その仕組みを理解している。 ・免疫を担当する細胞の種類と働きを理解している。 ・自然免疫と適応免疫の仕組みを理解している。 ・アレルギー・エイズ・予防接種と免疫との関係を理解している。			
12	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移	6		・多様な植生と環境との関係を理解させる。 ・陰生植物と陽生植物の違いを理解させる。 ・遷移の過程を理解させる。	・植生が気温や降水量といった環境要因に大きく影響されることを理解している。 ・相生や優占種の意味を理解している。 ・森林の階層構造と光環境の関係について考察できる。 ・光の強さと光合成速度との関係を理解し考察できる。 ・陽生植物と陰生植物が存在する理由を理解している。 ・植生は不变ではなく、光環境や植物の光に対する特性および土壤の発達段階に影響を受けて変化していくことを理解している。			
2	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ	6		・バイオームの概念や植生とその特徴を理解させる。 ・世界と日本のバイオームについて理解させる。日本の水平分布と垂直分布について理解させる。 ・生態系の概念や生産者・消費者・分解者について理解させる。作用・環境形成作用や食物連鎖(食物網)・腐食連鎖について理解させる。 ・栄養段階と生態ピラミッドについて理解させる。 ・炭素や窒素の循環・エネルギーの流れを理解させる。	・バイオームを構成している植物種とその特徴を理解している。 ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると理解している。 ・日本の水平分布と垂直分布について理解している。 ・生態系の概念を理解している。 ・生産者・消費者・分解者と非生物的環境が複雑に関わり合って生態系が成り立っていることを理解している。 ・生態ピラミッドについて理解している。 ・生態系の物質収支の計算ができる。 ・生態系において物質が循環すること、およびそれに伴ってエネルギーが移動することを理解している。			
3	3. 生態系のバランスと保全	2	学年末考査	・生態系のバランスとキーストーン種の役割を理解させる。 ・人間活動が生態系に大きな影響を与えることを認識させる。	・生態系のバランスの重要性を認識し、正常な生態系を維持するために一人一人ができることを考えることができる。 ・現在行われている環境保護や環境保全について理解し、考察することができる。			

学年	1	学科	理数科学科 人文社会科学科	科目	理数生物	単位数	2				
教科書	「改訂版 生物基礎」 教研出版 「高等学校 改訂 生物」 第一学習社		副教材 問題集	「八訂版 スクエア最新図説生物neo」 第一学習社 「五訂版 リードα生物基礎」 教研出版							
目標	「生物と遺伝子」では、多様な生物は共通の祖先に由来することと、生命40億年の歴史をつなぐDNAや生命活動について個体・細胞・分子レベルで理解させ、生物への関心を高める。 「生物の体内環境の維持」では、体内環境を維持する細胞・器官とその仕組みを理解させ、生命現象の緻密さ・繊細さを体系的に捉えさせる。 「生物の多様性と生態系」では、植生・バイオーム・生態系の概念を理解させ、科学的な自然観の育成を図る。										
具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元に入る場合には、興味・関心を喚起するため、導入に工夫を凝らす。 身近な事象との関連を図り、筋道を立て、論理的に思考し、考察させるための時間を十分確保する。 定期考査などをを利用して、基本事項の定着と理科的思考力・考察力の養成を図る。 定期考査を節目として、教師による授業評価を実施するとともに、生徒自身に学習の自己評価を行わせる。 内容や量を十分検討した課題を定期的に与え、完遂されることで、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 問題演習を通して十分な実力と応用力を育成する。 										
月 学期	単元名・項目	時間	テスト・実験	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考			
4	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	5		<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性について理解させる。 単細胞生物と多細胞生物・細胞群について理解させる。 生物に共通な特性を理解させる。 細胞には原核細胞と真核細胞があり、大きさも様々であることを実感させる。 基本的な細胞構造と細胞小器官(核・細胞質・細胞膜・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁)の特徴を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物に多様性と共通性があることの意味について理解している。 個体をつくっているのは細胞であり、細胞の数は生物によって様々であることを理解している。 生物に共通な特性は、細胞でできている・代謝をする・遺伝情報としてDNAをもつ・恒常性を維持するなどがあることを理解している。 細胞には原核細胞と真核細胞があり、その大きさは様々であることを理解している。 細胞の中には様々な細胞小器官があり、それぞれの特徴や働きを理解している。 						
5	2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸	5	中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 代謝(異化と同化)の概念を理解させる。 ATPの構造と働きを理解させる。 触媒としての酵素の働きを理解させる。 光合成と呼吸におけるエネルギー変換について理解させる。 共生説について理解させる。 顕微鏡とミクロメーターの使い方に慣れさせる。 DNAの構造を理解させる。 DNAの研究史を知らせる。 生体内で働くタンパク質の特性を理解させる。 セントラルドグマの概念を理解させる。 RNAの役割やタンパク質の合成過程を理解させる。 細胞分裂によって遺伝情報が分配されることを理解させる。 すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことを理解させる。 DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 代謝(異化と同化)の概念を理解している。 ATPがエネルギーの通貨として働くことを理解している。 生体内での酵素の働きを理解している。 光合成と呼吸は真逆の反応であり、それぞれの活動によってエネルギーを消費したり生成したりすることを理解している。 かつて、ミトコンドリアと葉緑体は別の生物で、それらが細胞に共生することによって細胞小器官となり現在の真核細胞ができたことを理解している。 顕微鏡を正しく扱うことができる。 ミクロメーターを使って、検鏡したもの長さを計算して求めることができる。 DNAの構造を理解している。 DNAに関する先人たちの研究について理解している。 タンパク質の構造と生体内で果たす機能を理解している。 セントラルドグマの概念を理解している。 DNAの塩基配列が遺伝情報であることや、それを元にしてタンパク質を合成する過程(転写・翻訳)を理解し考察することができる。 細胞分裂の仕組みを理解している。 細胞周期とDNA量の変化について理解している。 DNAの複製の仕方を理解している。 細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで細胞の分化が生じていることを理解している。 ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解している。 						
6	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	7	細胞分裂の観察 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 細胞分裂の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子やバフについて理解している。 ・だ腺染色体の観察を行い、観察結果を科学的に考察できる。 ・DNAの抽出に用いる薬品の働きを理解している。 ・生物材料から確実にDNAを抽出できる。 						
7		2	・だ腺染色体の観察 ・DNAの抽出実験								
9	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体内環境としての体液	6			<ul style="list-style-type: none"> 恒常性の概念と体液について理解させる。 血液の成分と働き・酸素解離曲線について理解・考察させる。 体液の循環の仕方について理解させる。 血液の凝固の仕組みを理解させる。 肝臓と腎臓の働きについて理解させる。 体液の濃度調節の仕組みを理解させる。 自律神経系と内分泌系による体内環境の調節の仕組みを理解させる。 水分量、血糖量、体温調節の仕方を理解させる。 						
10	2. 肾臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節	5	中間考査 ・ブタの腎臓の解剖		<ul style="list-style-type: none"> 血液の成分と働きや酸素解離曲線の意味を理解し考察できる。 ヒトの循環系には血管系とリンパ系があり、体液の循環に心臓や血管が果たす役割について理解している。 血液凝固の仕組みを理解できる。 肝臓と腎臓それぞれの構造と機能について理解している。 体液の浸透圧の調節の仕方を理解している。 濃縮率の計算ができる、それを用いて考察できる。 自律神経の働きと心臓拍動の調節の仕組みを理解している。 ホルモンの働きやホルモン同士の関わり方を理解し考察できる。 水分量や血糖量、体温調節の仕組みを理解している。 I型とII型の糖尿病の原因について理解している。 						
11	4. 免疫	7	期末考査								
12		3			<ul style="list-style-type: none"> 生体の物理的・化学的防禦の仕方を理解する。 免疫に関わる細胞や器官の働きを理解する。 免疫のしくみと免疫疾患・免疫の応用について理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> 異物の侵入を防ぐ方法として、物理的防禦と化学的防禦があることと、その仕組みを理解している。 免疫を担当する細胞の種類と働きを理解している。 自然免疫と適応免疫の仕組みを理解している。 アレルギー・エイズ・予防接種と免疫との関係を理解している。 			
1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移	6			<ul style="list-style-type: none"> 多様な植生と環境との関係を理解させる。 陰生植物と陽生植物の違いを理解させる。 遷移の過程を理解させる。 バイオームの概念や植生とその特徴を理解する。 世界と日本のバイオームについて理解させる。日本の水平分布と垂直分布について理解させる。 生態系の概念や生産者・消費者・分解者について理解させる。作用・環境形成作用や食物連鎖(食物網)・腐食連鎖について理解させる。 栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 炭素や窒素の循環・エネルギーの流れを理解させる。 			<ul style="list-style-type: none"> 植生が気温や降水量といった環境要因に大きく影響されることを理解している。 相観や優占種の意味を理解している。 森林の階層構造と光環境の関係について考察できる。 光の強さと光合成速度との関係を理解し考察できる。 陽生植物と陰生植物が存在する理由を理解している。 植生は不变ではなく、光環境や植物の光に対する特性および土壌の発達段階に影響を受けて変化していくことを理解している。 バイオームを構成している植物種とその特徴を理解している。 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると理解している。 日本の水平分布と垂直分布について理解している。 生態系の概念を理解している。 生産者・消費者・分解者と非生物的環境が複雑に関わり合って生態系が成り立っていることを理解している。 生態ピラミッドについて理解している。 生態系の物質収支の計算ができる。 生態系において物質が循環すること、およびそれに伴ってエネルギーが移動することを理解している。 			
2	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ	6									
3	3. 生態系のバランスと保全	2	学年末考査		<ul style="list-style-type: none"> 生態系のバランスとキーストーン種の役割を理解する。 人間活動が生態系に大きな影響を与えることを認識させる。 			<ul style="list-style-type: none"> 生態系のバランスの重要性を認識し、正常な生態系を維持するために一人一人ができることを考えることができる。 現在行われている環境保護や環境保全について理解し、考察することができる。 			

学年	2	学科／性別	普通科・理数科学科・ 人文社会学科／男子・女子	教科	保健体育	科目	体育	単位数	2			
教科書	高等学校 保健体育 ・ 第一学習社			副教材	ステップアップ高校スポーツ ・ 大修館書店							
目標	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動するとともに、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につける。 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫する力を身につける。 各種の運動技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけ、運動の技能や体力を向上させる。 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。											
月	週	単元名	学習活動			指導目標(ねらい)			評価の基準			
4	1	体育理論 体つくり運動	「体育」の学習についてオリエンテーション トレーニング理論・運動処方 トレーニングの計画立案・実践 自己評価			<ul style="list-style-type: none"> ・目標及び評価等について説明し、理解させる。 ・生活の中のスポーツについて理解させる。 ・施設の利用方法や服装など確認させる。 ・中部高校独自のトレーニング、ウォーミングアップについて説明し、トレーニングの取り組み方、体調管理等について理解させる。 			① 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ・授業行動観察(授業態度、服装) ・健康の増進、安全への配慮 (ウォーミングアップ等) ② 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・自己能力を理解し活動の仕方の工夫ができる ③ 運動の技能 <ul style="list-style-type: none"> ・記録会、ゲーム、試合での動き(行動観察) ・基礎技術テスト ④ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの理解 ・各運動技能の特性の理解 ・健康の増進、体力向上に関する基礎的な知識の習得 	評価配分 ①:②:③:④=30:20:40:10 ①～④については1年を通して共通の評価ポイントとする ただし、③の「運動の技能」については種目ごとに評価のポイントを決める。		
	2		持久走(男子1500m・女子1000m) インターバルトレーニング 記録会			<ul style="list-style-type: none"> ・1年時の記録向上を目指し、目標ペースの設定を各自行わせる。 ・各自の目標ペースを意識させ連取に取り組ませる。 ・練習前後のストレッチ(体調管理)を自主的に実施させる。 ・パートナーの記録向上に対して積極的にサポートさせる。 						
	3		選択制授業1 バレーボール テニス			<ul style="list-style-type: none"> ・全体目標・個人目標を設定させ、目標に応じた活動内容を計画させる。 ・班ノートを活用させ、計画・実践・評価・反省の取り組み方を理解させる。 ・班活動を通し、技能の習得・体力の向上・自己の役割安全に対する意識などを身につけさせる。 						
7	12	選択種目決定、グループ分け ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画) ・準備運動、トレーニングは全員で一斉に行う ・ゲーム練習では次のような工夫をしてみる ①みんながうまくなる工夫、②競い合って楽しめる工夫 ③作戦、フォーメーションの工夫 ・毎時間、ノート記入者はグループ全員の評価をする。 評価						【陸上競技】 ・男子1500m・女子1000m測定記録				
1学期コメント(次学期に向けての改善点)												
9	13	体育理論 体つくり運動	トレーニング理論・運動処方			<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中のスポーツについて理解させる。 			【選択競技】 ・個人技能、集団技能をゲームに活用できる ・ゲームにおける戦績			
	14		トレーニングの計画立案・実践 自己評価			<ul style="list-style-type: none"> ・中部高校独自のトレーニング、ウォーミングアップ、トレーニングの取り組み方、体調管理等について、実践させる。 						
	15											
	16		選択制授業2 サッカー ソフトボール バスケットボール 卓球			<ul style="list-style-type: none"> ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画) ・準備運動、トレーニングは全員で一斉に行う ・ゲーム練習では次のような工夫をしてみる ①みんながうまくなる工夫、②競い合って楽しめる工夫 ③作戦、フォーメーションの工夫 ・毎時間、ノート記入者はグループ全員の評価をする。 評価 						
11	21											
	22											
	23											
	24											
12	25	2学期コメント(次学期に向けての改善点)										
1	26	体育理論 体つくり運動	トレーニング理論・運動処方			<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中のスポーツについて理解させる。 						
	27		トレーニングの計画立案・実践 自己評価			<ul style="list-style-type: none"> ・中部高校独自のトレーニング、ウォーミングアップ、トレーニングの取り組み方、体調管理等について、実践させる。 						
	28		選択制授業4 バスケットボール バドミントン 卓球			<ul style="list-style-type: none"> ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画) 						
	29		<ul style="list-style-type: none"> ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画) ・準備運動、トレーニングは計画の中に含む ・生涯を通じて運動に親しむ態度を育てる 			<ul style="list-style-type: none"> ・全体目標・個人目標を設定させ、目標に応じた活動内容を計画させる。 						
2	30					<ul style="list-style-type: none"> ・全体目標・個人目標を設定させ、目標に応じた活動内容を計画させる。 						
	31					<ul style="list-style-type: none"> ・計画・実践・評価・反省の取り組み方を徹底させ、班ノートを活用させる。 						
	32					<ul style="list-style-type: none"> ・班活動を通し、技能の習得・体力の向上・自己の役割安全に対する意識などを身につけさせる。 						
3	33		3学期コメント(次年度に向けての改善点)									

学年	3	学科／性別	普通科・理数科学科・ 人文社会科学科／男子・女子	教科	保健体育	科目	体育	単位数	2		
教科書	高等学校 保健体育 · 第一学習社	副教材	ステップアップ高校スポーツ · 大修館書店								
目標	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動するとともに、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につける。 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫する力を身につける。 各種の運動技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけ、運動の技能や体力を向上させる。 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。										
月	週	単元名	学習活動	指導目標(ねらい)	評価の基準						
1	4	体育理論	「体育」の学習についてオリエンテーション トレーニング理論・運動処方	・目標及び評価等について説明し、理解させる。 ・スポーツ振興と自然環境について理解させる。	① 関心・意欲・態度 ・授業行動観察(授業態度、服装) ・健康の増進、安全への配慮 (ウォーミングアップ等)						
2		体つくり運動	トレーニングの計画立案・実践	・施設の利用方法や服装など確認させる。	② 思考・判断 ・自己能力を理解し活動の仕方の工夫ができる						
3			自己評価	・中部高校独自のトレーニング、ウォーミングアップについて説明し、トレーニングの取り組み方、体調管理等について理解させる。	③ 運動の技能 ・記録会、ゲーム、試合での動き(行動観察) ・基礎技術テスト						
4	5	陸上競技	持久走(男子1500m・女子1000m) インターバルトレーニング 記録会	・2年時の記録向上を目指し、目標ベースの設定を各自行わせる。 ・各自の目標ベースを意識させ練習に取り組ませる。 ・パートナーの記録向上に対して積極的にサポートさせる。	④ 知識・理解 ・ルールの理解 ・各運動技能の特性の理解 ・健康の増進、体力向上に関する基礎的な知識の習得						
5	6				評価配分 ①:②:③:④=30:20:40:10						
6	7	選択制授業1	選択種目決定、グループ分け ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画)	・各時間、班活動に入る前に、サーキットトレーニングを全員で確実に実施させる。(自ら進んで運動を行い、自己の体力の維持、向上を意識させる。)	①～④については1年を通して共通の評価ポイントとする ただし、③の「運動の技能」については種目ごとに評価のポイントを決める。						
7	8	サッカー		・準備運動、トレーニングは計画の中に含む							
8	9	テニス		・ゲーム練習では次のような工夫をしてみる ①みんながうまくなる工夫、②競い合って楽しめる工夫							
9	10	ソフトボール		③作戦、フォーメーションの工夫							
10	11	ハンドボール		・毎時間、ノート記入者はグループ全員の評価をする。							
11	12	バドミントン		評価							
12	13	ダンス									
13	14	7 12	1学期コメント								
15	16	体育理論	トレーニング理論・運動処方	・スポーツ振興と自然環境について理解させる。							
17	18	体つくり運動	トレーニングの計画立案・実践 自己評価	・中部高校独自のトレーニング、ウォーミングアップ、トレーニングの取り組み方、体調管理等について、実践させる。							
19	20	選択制授業2	選択種目決定、グループ分け ・各種目ごと、グループで目標を設定し、到達できるよう活動の内容を計画する。(全体計画、個人計画)	・各時間、班活動に入る前に、サーキットトレーニングを全員で確実に実施させる。(自ら進んで運動を行い、自己の体力の維持、向上を意識させる。)	【選択競技】 ①個人技能、集団技能をゲームに活用できるか ②ゲームにおける戦績						
21	22	サッカー		・準備運動、トレーニングは計画の中に含む							
23	24	テニス		・ゲーム練習では次のような工夫をしてみる ①みんながうまくなる工夫、②競い合って楽しめる工夫							
25	26	ソフトボール		③作戦、フォーメーションの工夫							
27	28	ハンドボール		・毎時間、ノート記入者はグループ全員の評価をする。							
29	30	バドミントン		評価							
31	32	バレーボール									
33	33	バスケットボール									
3	33	卓球									
3	33	トレーニング									
3	33	3学期コメント									

学年	1	学科	普通科・ 理数科学科・ 人文社会学科	教科	保健体育	科目	保健	単位数	1		
教科書	現代高等保健体育 改訂版・大修館書店	副教材									
目標	・我が国の疾病構造や社会変化に対応して、健康の保持増進を図るために、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理することが重要であることを理解できるようにする ・応急手当や心肺蘇生法(AED含む)について理解する。										
月	週	学習活動(単元名)	指導目標(ねらい)						評価の基準		
4	1	●現代社会と健康 ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	・平均寿命から見た健康水準の推移について理解させる。 ・死因別にみた健康水準から、わが国の疾患構造を理解させる。 ・患者の疾患の内容から、病気の新しい傾向について理解させる。 ・世界保健機関の定義などから健康の定義について理解させる。 ・私たちの健康を脅かす要因について理解させる。						評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ・心身両面にわたる健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、意欲的に自己の健康管理に努めている。		
	2	・生活習慣病の予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康	・健康を維持・増進するには何が必要で、何をすべきか理解させる。 ・「食べること」の意義について理解させる。 ・栄養素について理解させ、現在の食生活の問題点を考えさせる。 ・日常のコミュニケーションにおける食事の意味について理解させる。 ・運動不足が生活習慣病の原因となることを理解させる。 ・健康の維持・増進のための運動の役割について理解させる。 ・健康の維持・増進のための運動の方法について理解させる。 ・「休養と睡眠」が健康にとって大切な役割があることを理解させる。 ・「睡眠のリズム」について理解させる。 ・喫煙が健康に与える影響について理解させる。また、未成年者の喫煙について、問題点等を理解させる。						② 思考・判断 ・健康の保持増進に必要な事柄について理解を深め、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。 ・人間の欲求と適応機制にはさまざまな種類があり、精神と身体には密接な関係があること、また、精神の健康を保持増進するためにはストレスへの適切な対処と自己実現への努力が大切である事を理解し、日常生活に当てはめ行動している。		
	3	○応急手当 ・応急手当の理解 ・心肺蘇生法の実践について (AED(自動対外式除細動器)を用いた心肺蘇生法の実践)	・アルコールが健康に与える影響について理解させる。 ・青少年と女性の飲酒について健康との関係を理解させる。 ・応急手当の意義を理解し、その手法を理解する。 ・心肺蘇生法の実践、AEDの取り扱いについて理解させる。						③ 知識・理解 ・健康の保持増進に必要な事柄について理解を深め、課題の設定や解決の方法を理解している。 ・人間の欲求と適応機制にはさまざまな種類があり、精神と身体には密接な関係があること、また、精神の健康を保持増進するためにはストレスへの適切な対処と自己実現への努力が大切であることを理解している。		
1学期コメント											
9	13	・薬物乱用と健康	・薬物乱用とは何かを理解し、その依存性の実態と問題点について考えさせる。						具体的評価方法 ①出席状況 ②授業行動観察(授業態度) ③ノート提出、課題レポート(随時) ④定期考查		
	14	・現代の感染症	・おもな薬物とその乱用による健康被害について理解させる。								
	15	・感染症の予防	・医薬品の意義と正しい使用法を理解させる。								
	16	・性感染症・エイズとその予防	・「感染」の定義、また感染の症状について理解させる。 ・「感染症」を予防する方法について理解させる。 ・感染症患者の人権を守るためにはどうしたらよいか考えさせる。 ・エイズに対する正しい理解と知識を身につけさせる。 ・エイズ治療の現況について理解させる。								
10	17		・HIVの感染経路、予防方法について理解させる。								
	18		・生活習慣病はどのような病気なのか理解させる。								
	19		・生活習慣病の予防について理解させる。								
	20		・「肥満」「るい瘦」にはどんな問題が潜んでいるか理解させる。 ・がんが発病するメカニズムはどのようにになっているかを理解する。								
11	21		・新しい診断、治療法の理解を通して現在のがん治療法を理解させる。								
	22	・欲求不満と適応機制	・がんを予防するには、若いうちからどんなことが大切か理解させる。 ・がんを高度な精神機能を営んでいることを理解させる。								
	23	・心身の相関とストレス	・脳が高度な精神機能を営んでいることを理解させる。								
	24	・ストレスへの対処	・大脳辺縁系、脳幹、視床下部の関わりについて理解させる。								
12	25	・心の健康と自己実現	・体の機能調節で重要な働きをしている自律神経とホルモンについて理解させる。 ・心と体はどのように関係しているかそのしくみについて理解させる。 ・心因性身体機能障害とは何か、また起こる原因について理解させる。 ・人間の基本的欲求の理解と「欲求不満」「耐性」について理解させる。 ・現代青年のかかえるストレスについて具体的に理解させる。								
2学期コメント											
1	26	○交通安全	・「葛藤」の理解と青年期に遭遇する葛藤の場面について理解させる。								
	27	・交通事故の現状と要因	・葛藤の状況や欲求不満の場面での問題解決の仕方について理解させる。								
	28	・交通社会における運転者の資質と責任	・自我を守るしくみや適応機制について理解させる。								
	29	・安全な交通社会づくり	・「自我のめざめ」とは何か理解させ、自分自身のあり方について考えさせる。 ・劣等感など「理想の自分」「現実の自分」のギャップの克服について理解させる。								
2	30		・交通事故の原因について考えさせ、精神状態を含めた身体の動きと運転への影響について理解させる。								
	31		・交通事故が増加する時間帯、場所などの交通環境について理解させる。								
	32										
3	33	3学期コメント									

学年	2	学科	普通科・理数科学科・人文社会学科	教科	保健体育	科目	保健	単位数	1		
教科書	高等学校 保健体育	・ 第一学習社	副教材								
目標	・ライフステージにおける健康課題について、自己の健康管理の必要性と保健医療機関の活用に関心を持ち、また、わが国の保健医療制度や保健行政のしくみを理解する。 ・社会生活における健康の保持増進には環境問題等が深く関わっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解する。										

月	週	学習活動(単元名)	指導目標(ねらい)	評価の基準
	1	●生涯を通じる健康 ○生涯の各段階における健康 ・人生の各段階の健康 ・成長する心とからだ ・子どもから大人へ ・結婚は健康な家庭づくりのスタート ・新しい生命の誕生 ・一生を通じての健康 ・リハビリテーション	・「ライフステージ」の意味と人生の各段階の特徴を理解させる。 ・青年期からの健康の危険因子を理解させる。 ・人生の各段階における「健康課題」について理解させる。 ・思春期の精神面成長のプロセスや特徴を理解できるようにする。 ・思春期の身体の成長や変化について理解できるようにする。 ・思春期の性に対する男女の意識や行動の違いについて理解させる。 ・思春期における男女の身体の変化について理解させる。 ・結婚の意義、結婚年齢と出産、母胎や胎児の影響など理解させる。 ・「受精」のメカニズムと意義について理解させる。 ・「妊娠」の経過を胎児の成長と母体の状況と関連させて理解できるようにする。また「出産」の過程について理解できるようにする。 ・「家族計画」について理解させる。 ・「人工妊娠中絶」のリスクについて理解させる。 ・不妊治療や人工授精・体外受精などの治療法について理解させる。 ・「加齢」「高齢化社会」と健康との関わりについて理解させる。 ・リハビリテーションの意義について、具体的に理解させる。	評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ・ライフステージにおける健康課題について理解し、自己の健康管理の必要性と保健医療機関活用に関心がある。 ・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について関心がある。
4	2			
	3			
	4			
5	5			② 思考・判断 ・ライフステージにおける健康課題について自己の健康管理の必要性と保健医療機関活用について課題解決の方法を考えている。 ・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について課題解決の方法を考えている。
	6			
	7			
	8			
6	9	○保健医療制度および地域の保健・医療機関 ・わが国の保健医療制度 ・保健・医療機関の活用	・わが国の保健行政について具体的に理解させる。 ・わが国の医療制度について具体的に理解させる。 ・医療機関と医療専門機関には、どのようなものがあるか理解させる。 ・身の回りにある地域の医療機関について理解させる。 ・わが国の保健医療体制の現状について、具体的に理解させる。 ・少子化と子育てについて考えさせる。	③ 知識・理解 ・ライフステージにおける健康課題について自己の健康管理の必要性と保健医療機関活用に課題解決の知識を身につけている。 ・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について課題解決の知識を身につけている。
	10			
	11			
7	12	【定期考查】		

1学期コメント(次学期に向けての改善点)

	13	●社会生活と健康 ○環境と健康 ・環境と健康 ・大気と健康 ・水と健康 ・土と健康 ・産業廃棄物と汚染物質 ・地球環境と健康	・「地球環境問題」の現状について具体的に理解させる。 ・大気汚染の原因となる発生源や汚染物質の種類について理解させる。 ・大気汚染防止のための取組について考えさせる。 ・生活の中における水の役割について理解させる。 ・水の汚染防止のための取組について考えさせる。(水俣病) ・生活の中における土壤の役割について理解させる。 ・土壤の汚染防止のための取組について考えさせる。(足尾鉛毒事件) ・産業廃棄物の処理問題と新しい環境汚染物質の管理方法について理解させる。 ・「地球的規模での環境問題」の意味について理解させる。	
9	14			
	15			
	16			
10	17			
	18			
	19			
	20	○環境と食品の健康 ・環境衛生活動	・わが国の上下水道の整備の現状について理解させる。 ・ゴミ処理の問題、対策について具体的に考えさせる。	
11	21			
	22	・食品衛生活動	・食品による健康被害にはどのようなものがあるか具体例で理解させる。 ・食品を安全に管理するための法律制度について理解させ、健康被害を防止するしくみを考えさせる。	
	23			
	24			
12	25	【定期考查】		

2学期コメント(次学期に向けての改善点)

	26	○労働と健康 ・労働と健康生活	・労働と健康はどのように関わり合っているのか具体的に理解させる。 ・健康や福祉を視野に入れた職業の選択について考えさせる。 ・労働者の健康生活はどのようにして確立されるのか考えさせる。 ・職業病にはどのような種類があるか、具体的に理解させる。 ・職業病の原因には何があるか具体的に理解させる。 ・職業病を予防するにはどうしたらよいか具体的に考えさせる。	
1	27	・職業病にならないために	・労働災害にはどのような種類があるか、具体的に理解させる。 ・労働災害の原因には何があるか具体的に理解させる。 ・労働災害を予防するにはどうしたらよいか具体的に考えさせる。	
	28	・労働災害を防ぐには	・労働災害にはどのような種類があるか、具体的に理解させる。 ・労働災害の原因には何があるか具体的に理解させる。 ・労働災害を予防するにはどうしたらよいか具体的に考えさせる。	
2	29	・職場の健康・安全づくり	・労働者の健康や安全が保護されるしくみについて理解させる。 ・「自由時間」と「余暇時間」の違いについて理解させる。	
	30	・自由時間と健康	・「自由時間」と「健康」の関わりについて理解させる。	
3	31			
	32			
3	33	【定期考查】		

3学期コメント(次年度に向けての改善点)

具体的評価方法

- ①出席状況
- ②授業行動観察(授業態度)
- ③ノート提出、課題レポート(随時)
- ④定期考查

配分 ①:②:③:④=10:10:10:70

学年	1	学科	普通科・理数科学科 人文社会科学科	教科	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2			
教科書	高校生の音楽1 教育芸術社		使用教材	MUSIC NOTE 啓隆社 プリント						
目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。（音楽Ⅰの目標）									
具体的な取り組み 指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律、形式等）を知覚し、それらの働きを感じて表現、鑑賞する。 歌うことについての心構え、発声の基礎的な考え方や実践を知り、曲趣を生かした演奏能力の伸長を図る。 いろいろな楽器の演奏方法の習得や演奏能力の向上を目指すとともに器楽アンサンブルの魅力や楽しみを味わう。 基本的な和声のしくみをもとに簡単な旋律を創作し、音楽を創造する楽しみを味わう。 作品の歴史的、文化的背景や作曲者や演奏者による表現形態を理解して鑑賞を深める。 									
月 学期	単元名・項目	時間	指導目標（ねらい）	指導内容(学習活動) ※評価の基準(ポイント)				備考		
4	曲想を生かして歌おう	2	親しみやすい曲を通して楽しみながら高校の音楽学習への意欲を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 校歌を齊唱で、ポピュラーソングを齊唱や二重唱・合唱で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 歌うことの楽しさを感じ取り、主体的に取り組む。 無理のない姿勢で歌うことができる。 						
	楽典課題① 「音名と譜表・音符と休符」	3	楽曲をより深く理解するための理論を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形作っている要素について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> イタリア、ドイツ、日本音名について理解することができる。 音符や休符の長さを理解することができる。 リズムと拍子を感じ取ることができる。 						
5	芸術歌曲の楽しみ	8	日本語や外国語の言葉の特性に関心を持ち、アクセントや子音・母音の扱い、語感の違いなどを生かして表情豊かに歌う。	<ul style="list-style-type: none"> イタリア・ドイツ・日本歌曲を齊唱や二重唱・合唱で歌う。また鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 楽曲に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心を持ち、表現を工夫しながら歌うことができる。 						
6	日本民謡を聴く	2	音階の違いに気づき、表現の特徴を感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> 日本民謡を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 音階の違いに気づくことができる。 拍を感じさせない表現方法など特徴を感じ取ることができます。 						
	民族音楽の世界	2	諸民族の音楽にふれ、地域の特色を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 諸民族音楽の歌唱を取り組む。また鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 諸民族の音楽にふれ、地域の特色を理解することができます。 						
7	劇音楽の世界	6	舞台芸術や映画音楽の特徴を理解し、音楽の効果について考察しながら表現、鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージカルやオペラ、オペレッタから親しみやすい楽曲の歌唱を取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 劇の内容にふさわしい表現を工夫しながら歌唱に取り組むことができる。 表現の多様性を味わいながら興味を持って鑑賞することができます。 						
	発表会	1	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習した内容から曲を選び発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 表現の多様性を知り、お互いの個性の違いを尊重し、認め合うことができます。 						
8	鑑賞（音楽会）	夏期課題	音楽の楽しさを感じ取る心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 県内で行われる演奏会を鑑賞し、レポートを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> 演奏会の鑑賞を通して、音楽に親しむことができます。 						
9	楽典課題② 「音程」「和音」	2	楽曲をより深く理解するための理論を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 2音間の音程について理解する。和音の種類について理解し、聞き分ける。 <ul style="list-style-type: none"> 幹音や派生音の音程について理解できる。 三和音や四和音の構成を理解し、聞き分けることができる。 						
	器楽アンサンブルの楽しみ	8	リコーダーやギター、ハンドベルアンサンブルに取り組む。豊かなハーモニーと響きを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーやギター、ハンドベルアンサンブルに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な奏法を身につけ、視奏、曲想に関心を持ち、他のパートを意識しながら楽曲にあった表現を工夫することができます。 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージを持って変曲することができます。 						
10	発表会	1	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 器楽アンサンブルで学習した内容を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 表現の多様性を知り、お互いの個性の違いを尊重し、認め合うことができます。 						
	創作の楽しみ	3	楽器や身の回りの物などを使い、イメージを持って音楽創作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> アンサンブル創作に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 音素材の特徴を生かし、反復や変化、対照などの構成を工夫し、イメージを持って音楽を作ることができます。 創作作品の記録する方法を工夫しながら記譜することができます。 						
11	発表会	1	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 作品発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> 表現の多様性を知り、お互いの個性の違いを尊重し、認め合うことができます。 						
12	合唱の楽しみ	4	合唱活動に関心をもち、曲想と歌詞の内容や声部の役割理解し、表現を工夫して合唱する。	<ul style="list-style-type: none"> 校歌の混声四部合唱や合唱曲に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 各声部の役割を理解し、豊かなハーモニーと響きを味わうことができます。 						
	発表会	1	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 校歌（混声四部合唱）をグループを決めて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 表現の多様性を知り、お互いの個性の違いを尊重し、認め合うことができます。 						
	オーケストラに親しむ	4	いろいろな楽器の特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オーケストラ曲を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな楽器の特徴を理解しながら鑑賞することができます。 						
1	箏に親しもう	6	箏の音色や奏法の特徴を生かして、音楽表現を工夫する。またその音楽表現に必要な技能を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 箏に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 箏の音色や奏法の特徴に関心を持って、曲にあった表現を工夫することができます。 						
2	日本の伝統音楽に親しもう	2	日本の伝統音楽に触れ特徴を感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と長唄に親しむことができます。 						
3	発表会・鑑賞会 「芸術科合同発表会」	8	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> アンサンブルを中心とした曲に取り組み発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 曲目や演奏形態を考え練習し発表をする。 書道や美術選択者の発表を鑑賞して、芸術への造詣を深める。 						

学年	1	学科	普通科・理数科学科 人文社会学科	教科	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2			
教科書	高校生の美術1 日本文教出版		使用教材	油彩道具、キャンバス、石塑粘土、配色カード等						
目標	豊かな美的体験を通じて、創作する喜びや、生涯を通じて美術を愛好する心情や感性を育てる。									
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の表現力を育成を図りながら、独創性を追求できるような題材の工夫をする。 富山県内の美術館で開催される展覧会の鑑賞を促し、さまざまな作品に多く触れさせることによって鑑賞力の向上を図る。 自己評価表を活用し、より主体的に課題に取り組む態度を養う。 試行錯誤を繰り返しながら、粘り強く課題に取り組ませることで、達成感や自信を持たせる。 お互いの個性を認め合い、プレゼンテーション能力を高める作品鑑賞会の機会を多く設定する。 									
月 学期	単元名・項目	時間	指導目標（ねらい）	指導内容(学習活動)※評価の基準(ポイント)				備考		
4	オリエンテーション デッサンの基礎	2	1年間の学習内容に興味関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価表について理解し、学習の目標と授業計画を記入する。 カッターナイフで鉛筆を削り、6段階のグラデーションを作成する。 明暗や立体感を表すための鉛筆の使い方、描き方について理解する。 ※鉛筆の使い方や特徴、陰影の付け方など基本的な描写方法を理解できたか。						
5	鉛筆デッサン 「身近なものを描く」	4	基本的なものの見方や、表現方法、表現技法を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 対象物をよく観察し、モチーフの設定方法と構図について理解して描く。 空間、質感、均衡などの造形要素を理解し、表現の構想を練る。 光の方向を考えて、物の陰影を濃淡でつける。 対象物の質感の違いを感じて、描き表す工夫をする。 ※対象物をよく観察し、均衡、比例などの美的秩序を意識して描くことができたか。						
6	表現・デザイン 「色彩の基礎」「美の秩序」	2	配色や色彩調和について理解し、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> マンセル表色系と色相、配色について理解を深める。 3原色の混色や配色について、色彩調和について演習を行う。 シンメトリーやリピテーションなどの配置の法則と構図について理解を深める。 ※混色や配色演習を通じて色彩のしくみについて理解することができたか。 ※配置の法則や構図など、造形の秩序や美しさについて理解することができたか。						
7	油彩画 「私の大切な物」	14	油彩画の表現方法に興味を持ち、美しさを感じ取りながら制作する姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、主題を深めながら一人一人テーマやモチーフを決める。 空間、質感、均衡などの造形要素を理解し、構想を練ってエスキースをする。 油彩画制作の制作工程や油絵の具の特徴を理解する。 混色や重色、筆遣い（タッチ、マチエールなど）を工夫し、表現の幅を広げる。 色彩や形によって生まれる感情や美しさなどを考えながら描く。 ※基本的な油彩の特性や技法を理解することができたか。 ※自分の思いを豊かな発想を基に構想し、創造的な油彩画制作を行うことができたか。						
	美術史 作品鑑賞	2	美術の流れや作者の思いに触れ、鑑賞能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 西洋や日本、アジアの美術作品を比較しながら歴史や特徴を学ぶ。 絵画や彫刻、デザイン、映像メディア表現作品に対する考察を行う。 ※自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働き、日本の美術の歴史や表現の特質について考え、理解を深めることができたか。 ※美術史や美術作品の考察を行うことにより、鑑賞の能力を高めることができたか。						
8	鑑賞(美術展)	夏期課題	作品のよさを感じ取る心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 富山県内にある美術館の企画展や常設展を鑑賞し、レポートを作成する。 ※さまざまな美術作品を鑑賞することにより、美術作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現方法の工夫を感じ取り、感性を高めることができたか。						
9	デザイン 「暮らしの中の『使う』デザイン」	12	目的や機能、使いやすさや形態の美しさを考え、生活を豊かにするためのデザイン力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で使用しているものの使いやすさや美しさについて調べて発表する。 プロダクトデザインの考え方や日本の伝統文化について考察する。 使用目的や機能、使いやすさや形体の美しさを考えてデザインを施す。 ※生活の中で使うものとして、使用者の心情や、使用する場などに求められる機能と美しさの調和を考えることができたか。 ※目的や機能、美しさを考え、生活を豊かにするためのデザインを施すことができたか。						
10										
11	デザイン 「文字のデザイン」「オリジナルマーク缶バッジ制作」	12	視覚伝達デザインの目的や効果を考え、伝えるためのデザイン力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ポスターから視覚伝達デザインの役割や意義について考える。 書体や配置など文字の工夫について考える。 発想力を養うために、言葉を色と形に置き換えるワークシートに取り組む。 自己分析をして「自分らしさ」について考える。 「自分らしさ」を図案化して、オリジナルマークの缶バッジを制作する。 ※公共性や伝達性を考えたビジュアル・コミュニケーションについて理解を深めることができたか。 ※目的や条件を考えて、美しく形や色を構成することができたか。						
12										
1	油彩画 「ふるさと富山の情景」	14	自己洞察を深め、より自分らしい表現を追求する姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 図書室で富山を舞台にした文学、富山に関する文献、資料等を探す。 資料に基づき、自分の思いなどを文章化する。 資料を基に、アイデアスケッチを行う。 本制作では、試行錯誤を繰り返し、より良い表現を工夫する。 ※自己洞察を深めて自分らしい表現を目指し、粘り強く創造的な絵画制作に取り組むことができたか。						
2										
3				<ul style="list-style-type: none"> 今年度取り組んだ作品の中から、2作品を発表する。 音楽や書道選択者の発表を鑑賞して、芸術への造詣を深める。 感想レターを交換する。 ※表現の多様性を知り、お互いの個性の違いを尊重し、認め合うことができたか。						

学年	1	学科	普通科・理数科学科 人文社会学科	教科	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2				
教科書	「書Ⅰ」光村図書		使用教材	硬筆レッスン帳（教育図書）							
目標		書道の幅広い活動を通じて、書を愛好する心情を育て、意図に基づく表現を追求する態度を養う。									
・具体的な取り組み ・指導上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・作品の文化的背景や時代の思潮、筆者の感興や意図を洞察しながら鑑賞を深めるとともに、表現力を身につける。 ・自分の心に響く言葉を題材に創作作品に取り組む。制作意図を明確にし、表現を追求する姿勢を養う。 ・鑑賞会やグループ学習を通して、直感的・分析的・総合的に鑑賞する力や互いの個性を認め合う力を養う。 ・五分間の硬筆練習を行い、実用書の基礎を身につける。 									
月 学期	単元名・項目	時間	指導目標（ねらい）	指導内容(学習活動) ※評価の基準(ポイント)				備考			
4	書写から書道へ 書道で学習すること	2	芸術科書道への関心・意欲を高めさせる。 古典の臨書を通して技法を学び、表現に生かす方法について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・書の可能性や表現の喜びを感じ取るとともに、これから学習に関心・意欲を高める。 ・古典の臨書を通して書の美を味わい、表現技法を学ぶことで、創造的な表現が可能になることを理解する。 ・臨書の方法や拓本に関する基礎的な知識を身につける。 							
5	漢字の変遷と さまざまな書体	1	漢字の書体の変遷と、各書体の字形や線質の特徴について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもち、理解しようとしている。 ・各書体に特有の字形や線質の特徴を的確に捉えている。 ・漢字の書体の変遷を文字を書く目的や用具・用材等の歴史的背景と合わせて理解している。 							
6	楷書の学習	14	唐の四大家の書の臨書・鑑賞を通して、書風の違いや多彩な美を感受し、表現力の基礎を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・唐の四大家の人物像と代表作について基礎的な知識を身に付ける。 ・作品の比較により、鑑賞の方法について学ぶ。 ・鑑賞を通して、書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かす。 ・創造的な表現をするために、効果的な表現の技能を身につける。 							
7	行書の学習	6	行書の特徴を理解し、多様な書風に関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を通して、書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かす。 ・臨書を通して線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を習得している。 							
8	書の世界（鑑賞）	1	書の様々な作品や作者の思いに触れ、鑑賞能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の比較により、鑑賞の方法について学ぶ。 ・書の美的構成する要素について知る。 ・用紙に調和する文字の大きさや配置について理解する。 							
9	日本の美、発見レポート (夏期課題)		日本文化や、日本の美を感じとる心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の視点で美の要素を分析し、レポートを作成する。 							
10	篆書・隸書の学習	2	篆書・隸書の特徴を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書、隸書の成立過程や字形や線質、用筆の特徴を理解する。 							
11	篆刻	5	篆刻の工程、押印の表現効果を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・印の用途や押印したときの表現効果を考慮して作品を構想する。 ・制作の手順を理解し、撰文・検字・布字・運刀に関する知識や技能を習得する。 							
12	漢字作品制作	7	これまでに学習した表現技法や鑑賞力を生かして創作をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順を理解する。 ・表現のねらいを明確に定め、既習の古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ・作品を鑑賞し合うことで、表現の意図と技法の効果について理解を深める。 							
13	仮名の学習	9	古筆の鑑賞・臨書を通して、技法や多様な表現を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・時代による仮名の推移と、万葉仮名、草仮名、女手、片仮名それぞれの性質、また平仮名と変体仮名の違いを理解する。 ・古筆の鑑賞と臨書を通して、字形や線質の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 ・連綿の法則を理解する。 ・平仮名と変体仮名の調和、線質、連綿、紙面構成による表現効果について理解する。 ・古筆の学習を通して習得した技法や知識を生かし、創作する。 							
14	生活の中の書	1	書が生活のあらゆる場面で生かされることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな定型書式の書き方を身に付ける。 ・生活の中の書に求められる技法を学び、活用する。 							
15	漢字仮名交じりの書	2	題材から連想するイメージの違いや表現の工夫により、多様な書の表現が生まれることを理解させ、創作への見通しをもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書が、伝達や表現などさまざまな目的で書かれてきてきたことを理解し、目的に応じた表現の特徴を把握している。 ・練る。 ・題材から連想するイメージの違いや表現の工夫によって、多彩な書の表現が生まれることを理解し、それぞれの表現の良さを味わう。 							
16	漢字仮名交じりの書	11	表現のねらいに基づいて構想を練り、書体・書風や紙面構成、用具・用材に関する知識・技能を生かして、工夫して表現させる。相互鑑賞会で、表現の工夫を感じ取らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現のねらいを明確に定め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かして構想を練る。 ・古典や古筆の学習を通して習得した、書体・書風や紙面構成、用具・用材に関する知識を適切に生かし、目指すイメージを実現することで、創作の喜びを味わう。 ・創作した作品を互いに鑑賞・批評し合うことで、表現の意図と技法の効果について理解を深める。 ・さまざまな生徒作品に触れ、表現の工夫を捉えるとともに、自分の表現への生かし方を考える。 							
17	生活の中の書	2	書を愛好する心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「書道Ⅰ」で学習内容を生かし、テーマを決め、作品制作をする。 							
18	鑑賞会 「芸術科合同発表会」	3	表現の多様性や個性の違いを認め合う心情を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞をふまえ、制作意図や表現の工夫を明確にし、発表する。 ・音楽、美術選択者の発表を鑑賞し、芸術への造詣を深める。 							

学年	第1学年	学科	普通科・理数学科・人文社会学科	科目	コミュニケーション英語 I 総合英語	単位数	4						
教科書	UNICORN English Communication I			副教材 問題集	UNICORN English Communication I Workbook、 頻出ルール別発音・アクセント、基礎からの新々総合 英語、English Grammar 48、同ワークブック								
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に生きる日本人として、積極的にコミュニケーションを図る資質や能力の基礎を養い、異文化を理解し尊重する態度の育成を図る。 ・中学校の学習事項の一層の習熟を図り、生徒の総合的な英語能力を育成する。 ・日常的な話題について読みたり、聞いたりしたことを理解し、その内容について自分の意見をまとめ、発表する等の総合的な言語活動を行わせる。 ・英語学習の為の基本的文法体系を習得させる。 ・ペアワークやエッセイライティングを通して、自分の意見を正しい英語で表現できる能力を育てる。 											
具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の知的興味・関心に応え、かつ時代を捉えた教材を選択し、生徒の意欲を喚起する。 ・Speaking, Listening, Reading, Writingの4技能が相互に有機的に結びついた活動に取り組み、総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・基本的な文法事項の定着に向けて、詳細な指導計画を立てて取り組む。 ・発音やアクセントの基本的な体系を提示し、音としての言語の重要性を認識させる。 											
月 学期	単元名・項目	時間	ラスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考					
	PROMINENCE/発音・アクセント Grand View English Grammar in 48 Stages												
1学期 4月	Lesson 1 学習に関する基礎知識 発音練習プリント 発音・アクセントp3～p7	8		・世界の片隅で暮らす人たちに寄り添うようにカメラを向ける林さんの活動と考えを読み取り、将来の目標について考える。	①内容:文中の国々が抱える問題について理解を深める。 ②言語材料:助動詞、進行形、不定詞 ③文の種類、動詞と文型について理解したか								
5月	Lesson 2 4. 文型(II) 発音・アクセントp8～p19 5. 基本時制(I) 6. 基本時制(II) 7. 進行形	12	プレテスト 1学期中間考查	・作家アーサー・コナン・ドイルのエピソードと共に、日本でも人気の高いシャーロックホームズの魅力を探り、その様々な楽しみ方を学ぶ。	①内容:世界的に有名な作品についての英文を読み、関心を深める。 ②言語材料:文の構造、完了形、受動態 ③時制について理解したか								
6月	Lesson 3、4 8. 完了形(I)9. 完了形(II) 発音・アクセントp20～p27 10～13. 助動詞(I)～(IV) 14. 動詞の態(I) 15. 動詞の態(II)	12	第2回実力テスト	・音楽の才能に恵まれつつも、ユダヤ人としての運命に翻弄された女性バイオリニストの生涯について、時を追って正確に読み解く。 ・マダガスカルで起きている自然破壊の現状を知り、その原因と生態系の回復に向けての取り組みについて確認する。	①内容:ナチスドイツやホロコーストなど第二次大戦について理解を深める。 ②内容:報道記事のグラフ・写真・数字を読み取り、環境問題について考察する。 ③言語材料:分詞、動名詞、不定詞、関係詞 ④完了形、助動詞、態について理解したか								
7月	Lesson5 16. 不定詞(I)～18. 不定詞(3) 発音・アクセントp28～p31 19. 動名詞(I) 20. 動名詞(II) 21. 分詞(I) 22. 分詞(II) 23. 分詞(III)	12	1学期期末考查 特別授業	・メタンハイドレートの燃料としての長所と短所を押さえながら、開発の歴史と今後の展望を読み取る。	①内容:メタンハイドレートの特徴をもとに、その利点と問題点を対比的で理解する。 ③言語材料:疑問詞節 ④不定詞、分詞、動名詞について理解したか								
8月	Lesson 6 24.～比較(I)～26.比較(III) 発音・アクセントp32～p38	10	特別授業 第3回実力テスト	・ヴェネズエラが抱える社会問題を理解しつつ、エル・システムの理念と歴史を学び、団員たちの具体事例を通して音楽教育の重要性を読み取る。	①内容:ヴェネズエラが抱えている問題を理解する。 音楽を通じて子供たちの人生に起こる変化を読み取る。 ②言語材料:完了進行形、SVO(Cが不定詞、分詞の場合)について理解したか。								
2学期 9月	Lesson 7 27. 関係詞(I) 発音・アクセント 28. 関係詞(II) 29. 関係詞(III) 30. 関係詞(IV)	12		・レム睡眠とノンレム睡眠の違いを理解し、年齢層ごとの睡眠パターンを本文とグラフから正確に読み取る。	①内容:身近な話題に関する説明文を読み、内容の概要を理解し説明できる。 ②言語材料:仮定法過去、助動詞+完了形 ③関係詞について理解したか								
10月	Lesson 8 31. 仮定法(I)～32. 仮定法(2) 発音・アクセント 33. 話法(I)～34. 話法(II) 35. 否定(I)～36. 否定(II)	12	2学期中間考查	・村上作品がどのように世界中で受け入れられているのか、スタイルはどのように変化してきたのかを学び、その魅力に迫る。	①内容:村上春樹の作品が世界中で評価されている理由について考える。 ②言語材料:関係代名詞の非制限用法、分詞構文 ③仮定法、否定について理解したか								
11月	Lesson 9 37. 強調・倒置 発音・アクセント 38. 無生物主語 39. 接続詞(I) 40. 接続詞(II)	12	第4回実力テスト	・垂直農法の長所と短所を理解し、持続可能な社会に向けて将来の農業・食料問題について考える。	①内容:垂直農法を通して世界が直面している人口問題・食糧問題について考える。 ②言語材料:仮定法過去完了、未来完了形 ③強調、無生物主語、接続詞について理解したか								
12月	Lesson10 41. 名詞 発音・アクセント 42. 冠詞 43. 代名詞(I) 44. 代名詞(II)	12	2学期期末考查 特別授業	・友達のつきあいで思い悩む高校生の手記と、彼女が図書館で偶然見つけた本を通して、友情・コミュニケーション・書籍との出会いについて考える。	①内容:主人公の心情を読み取り、言葉の役割について考える。 ②言語材料:受動態(完了形・進行形)、関係副詞の非制限用法 ③名詞、冠詞、代名詞について理解したか								
3学期 1月	For Reading 45. 形容詞 発音・アクセント 46. 副詞	12	第5回実力テスト	・あこがれる少年の学校を訪ねる小旅行の中で現実世界を垣間見る短編小説。	①内容:文法演習 ②言語材料: ③形容詞、副詞について理解したか								
2月	読解演習 47. 前置詞(I) 発音・アクセント 48. 前置詞(II)	12	学年末考查		①内容:文法演習 ②言語材料: ③前置詞について理解したか								
3月	読解演習 文法演習 発音・アクセント	12	特別授業		①内容:文法演習 ②言語材料: ③文法総演習について理解したか								

学年	1	学科	普通科 理数科学科 人文社会学科	科目	英語表現 I 英語表現	単位数	2			
教科書	POLESTAR English Expression I			副教材 問題集	POLESTAR ワークブック Impact ISSUES (Longman)					
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀において、世界中の様々な人々と円滑なコミュニケーションを行うことができるよう、積極的な態度を育成する。 ・様々な演習を通して、的確な表現を用いたり、論理の展開を考える力を養う。 ・エッセイライティングや、ペアやグループでのスピーキング活動を通して、場面に応じて適切な表現を用いて考えを伝える能力を育てる。 									
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・英語表現の授業では、現実のコミュニケーションの場を想定した活動を通して、与えられた話題について即時に反応して話すことを目指す。また、補助プリントを活用しながら、より的確な表現力を高める指導をする。発表する活動をはじめ、アウトプットの場をふんだんに設け、情報や考え方をまとめ、目的に応じて適切な英語で表現することを意識させる。 ・表Tの授業では、チームティーチングを通して、全員が積極的にコミュニケーション活動が行えるよう工夫する。英語を用いて活動できるような雰囲気作りに努め、英語の4技能の能力を高めるよう、適切な支援を心がける。 									
月 学期	単元名・項目	時間	テキスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ポイント)			備考		
4	Lesson1 Lesson2 Lesson3 Lesson4 Impact Issues Unit1, 2	1 1 1 1 4		<ul style="list-style-type: none"> ・現在形を用いて、自分の事や周りの事柄について、簡潔に表現する。 ・過去形を用いて、過去の出来事を的確に表す。 ・未来形を用いて、予定を的確に表す。 ・現在完了形、過去完了形の意味合いを理解し、適切な場面で使いこなすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
5	Lesson5 Review 1 Lesson6 Lesson7 Impact Issues Unit 3~6	1 1 1 1 5	I学期中間検査	<ul style="list-style-type: none"> ・「能力・可能」を示す表現を使いこなす。。 ・「許可・依頼・提案」を示す表現を使いこなす。。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
6	Lesson8 Lesson9 Lesson10 Review 2 Impact Issues Unit7~9	1 1 1 1 5	第2回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「義務・命令・忠告」を示す表現を使いこなす。。 ・「推量・確信」を示す表現を使いこなす。。 ・受動態を用いて、周りの出来事について、適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
7	Impact Issues Unit1~9		1学期期末検査 夏季特別授業 スピーキングテスト		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを英語で、8文以上(10分)表現することができたか。 					
8	エッセイ・ライティング		第3回実力テスト		<ul style="list-style-type: none"> ・エッセイ・ライティングでは、100語程度の文章を書いてみる。 					
9	Lesson11 Lesson12 Review 3 Impact Issues Unit9~11	1 1 1 5		<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞を用いて、様々な状況や考え方を適切に表現する。 ・受動態を用いて、過去や未来の出来事について、適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
10	Lesson13 Lesson14 Lesson15 Lesson16 Impact Issues Unit12~14	1 1 1 1 5	2学期中間検査	<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞を用いて、様々な状況や考え方を適切に表現する。 ・分詞を用いて、様々な状況や考え方を適切に表現する。 ・分詞構文を用いた応用表現を使いこなす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
11	Lesson17 Lesson18 Lesson19 Review 4 Impact Issues Unit15~17	1 1 1 1 5	第4回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・比較表現を正確に使いこなし、様々な状況を適切に表現する。 ・関係詞の使い方を理解し、具体的な状況を正確に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
12	エッセイ・ライティング		2学期期末検査 冬季特別授業 G-TEC受験		<p>《冬期課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エッセイ・ライティングでは、150語程度の文章を書いてみる。 					
1	Lesson20 Lesson21 Review 5 Impact Issues Unit 18~20	1 1 1 5	第5回実力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・状況や内容に応じて、様々な関係詞を使い分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
2	Lesson22 Review 6 Impact Issues	1 1 2	学年末検査	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定法の使い方を理解し、架空の状況を正確に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトの内容を理解し、書き取りやQ&Aを正しく行うことができたか。 ・授業に積極的に参加し、ペア・ワークでは状況にふさわしい表現ができたか。 ・与えられたテーマについて、素早く考えを表現することができたか。 ・補助プリントの問題を仕上げながら、正確に書くことができたか。 ・情報や考え方をまとめ、場面に応じて適切に表現することができたか。 ・自分の考えを英語で、5文以上(10分)表現することができたか。 					
3	エッセイ・ライティング		春期特別授業		<ul style="list-style-type: none"> ・エッセイ・ライティングでは、200語程度の文章を書いてみる。 					

学年	2年	学科	普通科・理数科学科・人文社会科学科	教科	家庭基礎	単位数	2			
教科書	新家庭基礎21(実教出版)		副教材問題集	最新生活ハンドブック(第一学習社)						
目標	人の一生と家族・福祉、食衣住、消費生活などについて学ぶなかで、基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、国際化・情報化が進展し生活様式の多様化が進む現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育成する。									
・具体的な取り組み ・指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を身近にとらえられるよう、身近な話題や新聞記事などの活用、スライドでの提示、グループ活動などを取り入れ、興味・関心を持たせる。 ・より定着をはかるために、実験・実習、調査・研究、観察・見学など、限られた時間の中で工夫する。 ・問題解決能力を育てるため、夏休みを利用し個々の生活の問題を改善できるよう指導する。 									
月 学期	単元名・項目	時間 分+特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ペイント)				備考		
第一学期	1編 自立して生きる 1章 「自立する」とは 2章 楽しく安全に食べる 1. 健康をつくる食生活 2. 栄養素の働き 3. 栄養素必要量 4. 食品選択 5. 食品の取り扱い 6. 献立作成 7. 食品の安全性 8. 日本の食の課題 調理実習 環境と私たちの生活 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	2	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期の課題を理解し、自立に向けての目的意識を持つ。 ○「四つの自立」の必要性について理解する。 ○健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理および食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ○健康で安全な食生活を支える上での課題を探る。 ○食の安全性について理解し問題意識を持つ。 ○環境に配慮した消費生活について自ら考え、行動する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意味と自立への課題について理解し、今後の人生選択に関する基礎的・基本的な知識を身につけることができたか。 ・自立の意味を理解し、青年期の課題としてとらえることができたか。 ・食べることの意味、栄養に関する知識が習得できており、また食品の調理上の特徴を理解している。 ・自らの食生活について、栄養、環境、食品の選択、経済性などの視点から、問題点・課題をみいだすことができる。 ・調理実習において、調理のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、献立を考え、食品を選び、調理をするなどの行動ができる。 ・今後よりよい食生活を営むために、上記の視点において、問題点・課題を解決する方向性を見出すことができる。 ・持続可能な社会へ向けての課題と環境問題について理解し、大量生産・消費社会と環境、日常的な消費のあり方と環境の関係についての基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・自らの生活や消費行動のなかでの問題点や課題を、環境との関わりでみつけることができ、問題点の解決のために、情報の選択・発信、購入の選択、さらにライフスタイル変換へ向けての努力など、自ら主体的に判断し意思決定できる力を身につけている。 						
	7	学期末テスト								
	8	夏季休業中の課題	ホームプロジェクト							
第二学期	ホームプロジェクト発表 4章 人間らしく住む 1. 心地よい住まい 2. 住まい選びの視点 3. 住まいの間取り 4. 健康で安全な住まい 5. 環境に配慮した住まい 2編 支え合って生きる 1章 多様化した社会を生きる 1. 家族の変化 2. 多様な生き方 2章 子どもと生きる 1. 心身の成長 赤ちゃんとふれあい体験 2. 子育て環境 3. 子どもの権利と福祉 3章 支え合い共に生きる 1. 高齢者の生活とそれを支える仕組み 保育遊具製作	2	<ul style="list-style-type: none"> ○住まいの役割および住環境などについて住まいの選択の観点から必要な基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ○安全で環境に配慮した住生活を理解し、今後の課題を探る。 ○家族や家庭生活のあり方、多様な人々との共生を理解するとともに、法律や個人・家族を支える社会システムの重要性を学ぶ。 ○子どもの生活や発達について、知識を得る。 ○子どもの発達のために家族および地域や社会の果たす役割について理解する。 ○子どもを取り巻く環境および子どもの権利と福祉について理解する。 ○高齢期の生活と現状と課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々には様々な住要求があることを理解し、暮らしにあった住まいの種類や間取りについて理解できたか。 ・ひとり暮らしのための住まいの調査から、自らの住要求や住まい方との関連で間取りや立地などの問題点を読み取ることができる。 ・健康で安全・快適な住環境や地域環境についての基礎的・基本的な知識を身につけているか。 ・多様な生き方・パートナーシップの保障、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた家事・職業のあり方などについて理解し、現代の家族・ライフスタイルをめぐる問題や家族法・ワークルールなどについての基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・子どもや子育てに関心を持ち、子どもを支える社会のひとり、将来の親として、子どもの健やかな成長について意欲的に考えることができたか。 ・子どもの心身の発達と生活、親の役割、子育て支援の現状と課題について理解することができたか。 ・子どもに関わる問題について、子どもを取り巻く環境の変化と関連させて考え、その解決に向け思考を深めることができたか。 ・高齢期を「いきいき生きる」ことについて考え、そのための家族や地域の支え合いについて思考を深めることができたか。 ・子どもの生活に関連した遊具を製作し、実習でいかすことができる。 						
	12	保育実習	3	学期末テスト						
	第1編 5章 消費社会を生きる 1. お金の管理 2. 多様化する消費 調理実習 第1編 3章 自分らしく着る 1. 衣服の購入と管理 2. 持続可能な衣生活 3. リメイク実習	4 3 1 2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者としての自覚と経済的な自立の必要性について理解する。 ○消費経済の仕組みについて理解すると共に自立した消費者となることの重要性を認識する。 ○健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被服整理などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ○環境負荷の少ない購入・管理・消費について問題意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活とお金の関わりについて理解できたか。 ・リスク管理も含めて長期的見通しを持ち、ライフスタイルとライフステージを考慮した経済計画の必要性が理解できたか。 ・経済発展や技術の進歩により、消費生活は多様化・複雑化していることを理解できたか。 ・売買契約をめぐる消費者問題の特徴と仕組みについて現状を把握し、消費者を救済する法律や制度について理解できたか。 ・消費に関する生活情報を活用する態度を身につけることができたか。 ・被服の機能を理解し、TP0に合わせた着装を工夫することができるか。 ・被服材料の種類・性能・性能向上のための各種加工法を知り、適切な衣服の選択ができるか。 ・衣服に応じた洗濯の方法や管理など快適な衣生活を実践できる能力が身に付いたか。 ・衣生活における資源や環境問題を考え配慮する態度を身につけ、リメイク作品を製作することができる。 						
	3	調理実習	1	学年末テスト						

学年	2	学科	普通科	科目	情報	単位数	1					
教科書	『高校 社会と情報 新訂版』実教出版			副教材 問題集								
目標	・問題解決に関して、情報収集及び処理におけるコンピュータの活用法を学ぶ。 ・情報及び情報技術についての正しい理解を持たせ、日進月歩の情報技術に関して学びつづけることの大切さを認識させる。											
・具体的な取り組み ・指導上の留意点		・コンピュータリテラシーが身につくように留意する。 ・コンピュータ利用の前提として、情報モラルを大切にする姿勢を養わせる。 ・身近な事象との関連を図り、筋道を立て、理論的に思考、考察し、操作させるための時間を十分確保する。 ・情報技術の進展が社会に及ぼす影響について適宜説明するようとする。										
月 学期	単元名・項目	テスト・特別指導	指導目標(ねらい)	指導内容(学習活動)と評価の基準(ペイント)			備考					
1 学期	PCを使う上でのオリエンテーリング ワード、エクセル演習 【第5章】問題解決	期末考查	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの基本的な使い方を学ぶ ・ワード、エクセルについて学ぶ ・生活の中での問題解決の手順と手法について学ぶ。 	PCの機能、設備説明、キーボードの各機能（ショートカット等）、ソフトウェアの紹介等、基本的な使い方を理解させる。 ワード、エクセルの機能説明を行い、今後に必要な使い方を理解させる。 ・情報発信の目的や受け手の状況を踏まえて、多様な形態の情報や多様な観点からの情報を収集することを理解させる。								
2 学期	【第1章】情報社会 【第3章】情報安全	期末考查	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の発達による社会・生活の変化について学ぶ。 ・情報を守る法律や技術について学ぶ。 	・情報機器の扱いに慣れさせるとともに情報社会の中の情報技術や情報モラル、著作権について考え、理解させる。 ・情報を守る法律や技術について理解させる。								
3 学期	【第4章】ディジタル化	期末考查	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて学ぶ。 ・コンピュータ内で情報がどのように処理されるかを学ぶ。 	・コンピュータの仕組みやデジタル化の仕組み、情報の表現方法を理解させる。 ・進数を中心とした情報に関わる計算を理解させる。								